

初期の小崎弘道日記 (1)

土 肥 昭 夫

解 説

本誌に数回にわたって小崎弘道（一八五六一—一九三八）の初期東京伝道時代の日記を寄稿する。この時代の日記は、『日録第一』、『日録第二』、『小崎弘道自筆集』（3）、(10）、(11)に収められている。同志社大学神学部研究室は、小崎弘道の長男小崎道雄氏（一八八八一—一九七三）の御遺志により静夫人より二回にわたり、弘道自筆の文書の寄贈をうけた。研究室はその膨大な文書を『小崎弘道自筆集』七〇巻、『小崎弘道説教・講演集』三巻、四点の著作の稿本一二巻に整理し、製本して書庫に収めた。このほか『日録第一』の複写も入手した。かつて湯浅與三氏が『伸び行く教会』（教文館、一九四一）に『日録第一』より小崎の日記のごく一部分（一八八〇・一〇・一五—二四）をしかも抜粋で記述され、その後杉井六郎氏が『日録第一』、『日録第二』や自筆集を用いて「小崎弘道の東京伝道と『六合雑誌』の発刊」（同志社大学人文科学研究所キリスト教社会問題研究会編『日本の近代化とキリスト教』新教出版社、一九七三）を発表された。しかし、それらはもとより初期の日記の全貌ではない。その意味で、この寄稿は未公表の

資料の全面的公開といえるだろう。なお、筆者は近いうちに小崎の自筆集、その他の文書の目録を『基督教研究』に寄稿する。

小崎が丹念に日記を書く習慣をもっていたことは、『小崎全集』第六巻と第四巻に収められた四種類の伝道日記（一九二〇、二一、三四、三五―三七）より既に知られていた。この習慣は少なくとも一八八〇年代にさかのぼることが、この文書で明らかになる。自筆集は「備忘録」その他の表記で一九〇〇年以後の日記を収めている。本誌に掲載するのは、「日録」とか「日記」などの名で彼が毛筆で書いた一八八〇年一月一五日から一八八八年三月二〇日までの日記である。それに自筆集にある関連記録をつけ加える。ただし『小崎弘道自策集』(Q)は、書体と内容より、千代夫人の記述と推定される。なお、『日録第二』が研究室に収められていないので、大きい空白の時期があるのは、まことに残念である。この時期は、小崎が東京を中心として活発な伝道と旺盛な社会活動をすすめていた時期であり、それらがそのまま草創期のプロテスタント・キリスト教の動向を明らかにすることになる。彼の『七十年の回顧』（警醒社、一九二七・四）に記憶違いが散見され、そのうえに「日本基督教史（遺稿）」（『小崎全集』第二巻）も記述されているので、それらの著作のこの時期に関する叙述は、この日記によって点検されねばならない。

改めて述べるまでもないことであるが、一八八〇年代のキリスト教は逆風に拮抗し、のちには順風に便乗して、勢力を伸ばしていった。それは未成熟にみえるかも知れないが、潑刺とした青春の輝きに満ちていた。それを象徴するような人物が、小崎である。彼は一八七九年六月に同志社英学校を卒業し、一月に東京に赴き、翌月には同志社出身で東京在住の信徒たちを中心に新着町教会を設立し、その牧師となった。一八八二年四月にこの教会は新桜田教会に改名し、さらに九月に他の教会と合同して東京第一基督教会（九一年一〇月に靈南坂教会と改称）と称した。彼はその牧師となったが、八三年二月にこれを辞任した。しかし、その後も彼はここで教会活動を継続した。一八八〇年

三月に東京（キリスト教）青年会が結成されると、彼はその会長に選ばれた。そして同年一〇月にここより『六合雜誌』を創刊し、その幹事兼編集となった。一八八三年七月に彼は湯浅治郎と警醒社を設立し、その出版企画や経営にたずさわった。そして同社より同年八月に『東京毎週新報』を創刊し、その持主兼印刷となった。彼の最初の著作『政教新論』（一八八六・四）も同社より刊行された。一八八六年四月に彼は番町講義所を開設し、これが同年一月に教会となると、彼はさきの東京第一基督教会と番町教会の兼任牧師となった。しかし八七年一月には後者の専任牧師に就任した。その間、彼は前述の諸活動を継続するのみならず、東京の諸教会の連合活動、日本基督伝道会社依頼の地方伝道、日本組合教会の設立と運営、一致、組合両教会の合同運動などに重要な役割を担った。そのうえ、彼は自らの研鑽を怠らなかつた。たとえば、一八八四年一月に東京帝大の哲学関係者が結成した哲学会に出席して研究を発表し、論文を寄稿した。

彼の初期東京伝道時代の説教、時事評論、論説、論文、翻訳は文字通り膨大な量に及ぶ。彼の言論はもとより彼の固有のキリスト教理解にもとづくが、内村鑑三や海老名弾正と違って、日本のキリスト教の趨勢を先き取りし、あるいはそれを代弁するような性格を帯びていた。この時期のものにもその兆しがみられる。この日記には彼のこのような言動を徹視的に探り出す手がかりを提供することになるだろう。

彼の日記の文章は、概して読みやすいが、それでも判読に困難なところは少なくない。それを判読し、ワープロに打ち込み、原稿としての形態に整えていったのは、筆者の妻淳子である。筆者はそれを原文とつぎ合わせながら点検し、彼女が判読しかねる箇所には文字を挿入していった。その意味では、彼女が執筆者で、筆者は校訂者にすぎない。この日記が日本プロテスタント・キリスト教史の研究に役立つならば、二人の喜びはそれに勝るものはない。

最後に、凡例のようなことを記す。

(1) 記述は原文通りであるが、固有名詞を除き、漢字の旧字体は新字体に改めることを原則とする(例 國↓国)。なお、固有名詞に略字が使われている場合にはそのまま記述する。

(2) 不明な文字は□で示す。

(3) 筆者の注は「」で示す。

『日録第一』

〔表紙〕

明治十三年十月十五日

小寄弘道

明治十八年一月改之

日録 第一

紀元千八百八十年

明治十三年十月

○十五日 晴 今日ヨリ日記ヲ始ム午前九時警視庁へ出頭六合

雑誌ヲ誤テ発売セシ趣ヲ届出ツ同十時過キ内務省ニ行六合雜

誌之許可ヲ促ス婦路勸工場ニ立寄り帽子其他教品ヲ購求ス午

後学農社雑誌ニ行キ津田先生ト面晤ス

○十六日 晴 竹谷氏大阪ニ帰ル同氏ニ六合雑誌二十八部ノ運

送ヲ托ス午後銀座三丁目十字屋ニ大説教会ノ委員ト集合シ該

会ノ計費ヲ通算ス三時過キヨリ該委員ト相生亭ニ登リ洋食ヲ

喫ス此ニ聯合説教会ヲ起スコト及親睦会ノコトヲ談ス後三浦

氏ニ行キ重テ聯合説教会ノコトヲ談シ教会ノ実況神学校生徒
ノコト等ニ清話ヲ尽シ午後九時過婦館ス

○十七日 曇 今朝安息日ナルニ講義ニ集ルモノ我等母子ヲ合

セテ僅ニ四人ナリ共ニ會員ノ集合ノ少キヲ嘆ス午後二時講筵

ヲ開ク集モノ凡テ八人ナリ今日会堂新築ノコトヲ議ス今夕少

風邪ナルヲ以テ麻布学農社ニ行クコトヲ止ム

○十八日 晴 午前九時内務省ニ到リ六合雑誌ノ許可ヲ促ス婦

路竹川町学農社雑誌局ニ立寄ル午後壹時ヨリ和田兄ト中村先

生ヲ訪問タルニ先生留守ナリ此ヨリ本郷医学部病院ニ行キ山

田晴太郎氏ヲ訪フ同氏札幌農学校ノ生徒ナリ次ニ小谷大西ノ

両君ヲ訪ヒ次ニ佐藤病院ニ在ル野寄氏ヲ訪フ帰途神田君ヲ訪

ヒ植村氏ニ寄清談時ヲ移シ午後十一時比ニ婦館ス

○十九日 (火) 晴 午前他出セズ午後図書館ニ行キ圖書ヲ歸途

神田氏ニ寄り夕飯ヲ喫ス閑話時ヲ移シテ帰ル

○廿日 (水) 晴 午後四時岡松先生ノ芸ニ到リ徳富君ヲ訪フ同

六時ヨリ丁野氏ニ行キ祈禱会ヲナス集ル人甚僅ナリシモ甚愉

快ナル会ナリシ

○廿一日 (木) 曇 午前九時ヨリ竹川町学農社雑誌ニ行キ津田

先生ニ添書ヲ請ヒ内務省ニ行キ何氏ニ面会ヲ乞フ同氏事故アリテ之ヲ謝絶ス属官ニ逢テ六合雜誌ノ許可ヲ促ス夜説教ヲ催フス傍聴ニ来ル者ナシ依テ和田兄ト母子三人聖書ヲ読ミ祈禱シ之ヲ終ユ

○廿二日 (金) 雨 午前十時警視庁ニ出頭シテ先日ノ嘆願書ノ聞届ヲ請ク午後三時ヨリワデーデル氏ヲ問フ帰路高木氏ニ寄り後チ築地ノフオルツ氏ヲ訪フニ留守ナルヲ以テ桂兄ノ宅ニ依リ夕飯ノ饗応ニ遭フ

○廿三日 (出) 雨 午前翻訳ニ従事ス午後一時ヨリ懲矯院ノ相談ニ付虎ノ門内竹ノ家ニ集会ス集ルモノ中村、津田先生ヲ始メトシ阪部、加藤氏外五六名ナリシ当日ハ先ツ發起人ニ有名ナル人ヲ募ルコトヲ議決ス此夜又翻訳ニ従事ス

○廿四日 (日) 晴 当日ハ安息日ナルヲ以テ午前十時ヨリ聖書ノ会読ヲ始ム集ルモノ和田桂兄ノ外一名ナリシ午後二時ヨリ余ハ講義ス聴衆到テ僅ニシテ七八名ニ過キズ夜和田兄ト共ニ麻布津田先生ノ宅ニ行キ講義ヲ催フス聴衆ハ学農社ノ生徒ニテ凡ソ十五六名ナリ午後十一時ニ帰館ス

○廿五日 (月) 晴 午前翻訳ニ従事ス午後四時ヨリ外出マクラレン氏ヲオールツ氏ヲ訪ヒ女学校ニ到リ矢島女ニ面会シ六時過キ帰館ス

○廿六日 (火)

○廿七日 (水) 午後ヨリ初テ聯合説教会ヲ両国教会々堂ニ開ク

○廿八日 (木) 今朝始テ六合雜誌ノ許可余輩大ニ喜ビ早速諸方ニ通送ス

○廿九日 (金) 今朝駅通局ニ雑誌定税免許ノ願書ヲ出ス

○三十日 (出) 午後二時ヨリ青年会演説ヲ開ク聴衆凡ソ四五十人演説者植村小寄ワデーデル諸氏ナリ之ヨリ吉岡、井深、平岩ノ諸君余カ寓ニ来ラレ共晩飯ヲ喫ス

○三十一日 (日) 午前メソヂスト教会ノ招キニヨリ築地明石町会堂ニ於テ講義ス之ヨリ同処ニオオン教会ニ於テ説教ヲ聴ク午前十二時過帰館ス当教会会員等ハ親睦会并ニ相談会ナルヲ以テ共ニ午飯ヲ喫シ会堂新築ノ談判ヲナス今午後ハ粟津君先ニ死去サレ其葬式ナルヲ以テ説教ヲ和田君ニ依頼シテ之ニ趣ク哀哉其式ハ神道タルヲ以テ堂々タリト雖モ情ヲ慰スルニ由ナク其式ヲ終タル後ニ横浜ノバラ教師講義タムソソ教師祈禱ヲナス

十一月

○一日 (月) 午前ハ翻訳ニ勉勵ス午後三時ヨリ六合雜誌編輯ノコトニテ十字屋ニ会ス同四時ヨリ津田先生上野兄ト共ニ明六社ノ集会ニ出会ス閑話数時間夕飯ヲ喫シテ後退散ス当日会合ノ諸先生ニハ田中司法脚神田津田箕作ノ三議員西先生其他外山田尼駒井等四五名ナリシ

○二日 (火)

○三日 (水) 晴 当日天長節ニテ両国橋向中村楼ニ於テ東京学生親睦会アリタレバ上野兄ト共ニ之ニ趣クサスカ東京学生親睦会ナリタレバ之ニ会スル五百有余名初ニ田口、馬場、波多野、津田諸君ノ演説アリテ書生数名ノ演説アリテ午後一時過キ酒肴ヲ出ス書生争テ之ニ附キ蟻集蠅屯シテ之ヲ食ヒ雑沓云ハン方ナク実ニ視ルニ忍ヒザルコト多シ余輩之下共食フコト

モ得ズ二時過キニ空ク退去ス

同夜祈禱会ハ事故アリテ会堂ニ於テス会スルモノ四五名共ニ談シ互ニ祈リ随分愉快ナル会ナリシ山本氏モ今夕初テ衆人ノ初ニテ祈禱ヲナス

○四日 (休) 晴 午前反訳ニ従事ス午後五時過キヨリ桂兄ノ伴ヒニ依リ上野兄ト共ニ斎藤氏宅ニ赴キ夕飯ノ饗応ニ与ル閑話時ヲ移シテ帰ル

○五日 (金)

○六日 (土)

○七日 (日) 午前九時下谷教会ニ於説教ス午後三時当会堂ニ於テ又説教ス当日鈴木兄ハ神戸ヨリ真鍋兄ハ今治ヨリ和田兄西京ヨリ来会シ愉快ナルコトナリタリ夜麻布学農社ニ行ク

○八日 (月)

○九日 (火) 夜青年会ノ奨励会ヲ催ス来会スルモノ少ナカリタレントモ亦有益ナル会ナリタリ

○十日 (水) 午後一時ヨリ日本教会会堂ニ於テ聯合説教会ヲ開ケリ第六時和田桂ノ両兄ト遠国ノ教友ヲ饗応スルコトヲ謀テ相生亭ニ於テ十余名ノ教友ト共ニ飲ヲ尽シテ洋食ヲ喫ス

○十一日 (木) 夜講議ヲ開キタレントモ来会スルモノ絶ヘテ一人モナシ此六合雜誌ヲ出版スル所都合ニ依リテ一日後レ翌朝出版スルコトニナリタリ

○十二日 (金) 此日六合雜誌第二号ヲ発兌ス

○十三日 (土) 午後二時ヨリ共益会アリテ之ニ赴ク

○十四日 (日) 朝会説ニ集ルモノ三四人午後説教ハ植村氏之ヲ司ル

○十五日 (月) 午前用事アリテ築地ニ行キ午後十字屋ニ到ル

『小崎弘道自筆集』(3)

〔裏表紙〕

熊本県 小崎弘道

明治十三年七月十七日

〔年月日不明〕

青年会雜誌局談判簡条

一、六合雜誌永遠維持之方法ヲ立ル

株金ヲ募集スルコト

一、委員ヲ設ケ規則ヲ編輯セシムルコト

但シ三名乃至五名

規則細目

一、株金之総額及株高之事

五千元以上 五円

一、株主ハ内外人ヲ問サルコト

一、株金徴収法

一、会社ノ期限

一、職員之事

一、純益配当法

一、株金処置之事

一、株金ヲ徴収スル迄雜誌維持方法

一、株金徴収発起人委員并賛成人之事
一、発起人中ヨリ三名乃至五名ノ委員ヲ撰ミ規則ノ編輯及此迄
雑誌ノ為ニ努力セシノ人ノ株金額ヲ定ムルコト

明治十四年九月廿八日之夜 西京ニ於テ山壽兄及龜山兄并馬場
某眠ルト夢ハ甚タ著シキ夢ナルヲ以テ記シテ以テ考証トナス

『日録第一』続

日記

明治十四年十月十九日 晴

横濱之教友等基督教演説会ヲ横濱ニ催ス

東京横濱毎日新聞刊行停止申付ラル此ヨリ先キ内閣ニ大紛紜
起ル十二日ニ大隈参議其職ヲ辞ス開拓使官有物私下一条取
消サル国会開設ハ來廿三年ニナサル、勅諭下ル今毎日新聞ノ
停止セラレタルモノハ或ハ此紛紜ヲ直筆ニ掲載セシニ因ラン
乎

○廿日 (休) 雨 曾テ第十五国立銀行ヨリ借用セシ百二十円返
濟期來ルニ依高木氏ノ紹介ニテ第三十三国立銀行ヨリ百三十
円ヲ借用シ右百二十円ト其利子五円余ヲ第十五国立銀行ヘ返
却ス午後植村氏來リテ六合雜誌ノ事ニ付談ス夜祈禱会アリ此
夜降雨頻リナルヲ以テ参会スル者僅ニ二三名然モ各熱心ナル
祈禱ヲ以テ九時ニ会ヲ散ズ

昨日横濱ニテ催サレタル演説会ハ甚盛ナルコトニテ午後二時

ヨリハ集ルモノ凡ソ千余人又午後七時ヨリハ凡ソ千二三百人
モアリシト云フ

○廿一日 (陰) 曇 午前林治定氏來訪セリ午後和田兄ヲ訪ヒタ
リ夜ニ入り日谷ノ練兵場ニ至リテ黙念シ頗ル感スル所アリ

○廿二日 (出) 晴 昨日内閣ニ大更迭アリタリテ陸軍卿大山
巖、河村純義、福岡孝弟、佐々木高行ノ四君新ニ参議ニ任セ
ラル又内閣六部ヲ廢セラレ更ニ参事院ヲ置カレ伊藤参議其議
長ニ任セラレタリ

親友海老名兄ト大阪ノ森田君ト東海道ヨリ來レリ

○二十三日 (日) 京阪神ノ地方ヨリ当地ニ來リタル信徒ガ集会
ヲ初メシヨリ三年ニナルヲ以テ第三年期ノ記念会ヲ催シタリ
午前海老名兄ノ演説アリ終リテ後集会セシモノ十九名共ニ喫
食セリ午後拾数名ノ演説アリタリ此教会建会以來ノ盛会ナリ
シ此日福岡ノ八木氏來ル

○二十四日 (雨) 雨

○二十五日 (欠) 曇 上野榮三郎兄アメリカニ向テ出発ス夜六
合雜誌維持法相談ノ為メ自宅ニテ集会ス是レ八木海老名両兄
六合雜誌ノ為メ株金ヲ募ランコトヲ主張セシニ由ルナリ

○二十六日 (欠) 晴 午前日比谷ノ操練場ニテ英國皇孫ノ為觀
兵式ヲ行ハセラレタリ英國皇孫アルベルト公及ジョールヂ公
ニハ去ル廿一日ニ横濱ニ着セラレ一昨廿四日ニ入京セラレタ
リ午後ヨリ本郷岩村氏ノ宅ニ夫婦ニテ行ケリ

『小崎弘道自筆集』(3) 続

〔一八八三年五月八日〕

〔第三回〕大親陸會議事案

- 第一、埋葬之事
- 第二、聖書翻訳之事
- 第三、伝道者遺族扶助法
- 第四、大親陸会規約
- 第五、伝道会社合併之事

第三回 五月八日九日十日

大親陸会

杞憂会

- 一、議員ヲ定ム
- 二、宮川氏ヲ議長ニ定ム
- 三、書記、吉岡、奥野、浅川
- 第三回ノ親陸会

報告

- 第一、札幌 三十七人
- 第二、上田 五十八人
- 第三、甲府 三十八人
- 第四、桐生 九十六人
- 第五、安中 百二十一人
- 第六、東京 百二十人(四十名) 三人
- 第七、〃 三十四人 Episcop.
- 第八、〃 四十名

三十円九十七銭

黒沢

第九、Papists 二十六名

第十、基督 五十四人(三十六人)

第十一、福音会 百十五人(三十九小児)

第十二、横濱一致

第十三、東京 千三百余人

第十四、静岡沼津 七十二人 三十七人 十五円

第十五、仙台 百六人 四ヶ所 二十二円

第十六、京都 一

第十七、大阪 七十八人 Eng. Epis.

第十八、神戸

第十九、岡山

第二十、東京 百〇四人 Canada Methodist 百八円九十銭

第二十一、東京 Methodist Episcopal 百八十三人

English Episcopal 四人

第二十二、新潟教会 五十人

『小崎弘道自筆集』(11)

修業録 明治十七年一月三日

一月三日

余性怠慢ニシテ事ヲ務メズ殊ニ事ヲ遷延スルノ弊甚シ故ニ成ル可キノ事モ終ニ遂クルヲ得ズ為メニ主ノ恩寵ヲ空フスル事少カラズ今年改マルニ際シ宿弊ヲ感スル少小ニアラズ将サニ聖靈ノ恩祐ニ依リ此宿弊ヲ削除シ年ト共ニ新ナラントス仰キ希クハ在

天ノ父余カ罪惡ヲ赦シ余カ荏弱ナルヲ祐ケ玉ハンコトヲ
愛ニ日課ヲ定ムル事左ノ如シ

午前五時半 出寝 同六時ヨリ祈禱并聖書

同八時 出社 午後四時退社

午後十時 入寝

聖靈ノ恩寵ニ依リ右ノ日課ヲ決行シ余性来ノ怠心ヲ鞭策シ天父
ノ召ニ応スルノ厚意ニ報イントス神ヨリ願ワクハ余ヲ祐ケ玉ハ
アーメン

伏シテ惟ルニ天父我国聖道開発ノ時ニ際シ億兆ノ民ノ中ヨリ余
ヲ召シ玉ヒシハ他ナシ余ヲシテ特ニ一身ノ救ヲ得セシムルノミ
ナラズ必ズ福音ヲ我國民ニ伝フルノ器トナサントナリ余儕ヲ以
テ上帝ノ厚意ニ報センヤ不肖短才唯羞ルアルノミ今余ノ事ヲ為
スニ最モ欠乏スル所ヲ省ルニ第一勇氣ナキ事第二勉強心ナキ事
第三慢心シ易キ事第四事ヲ為スニ遲鈍ナル事等ナリ

思フニ此等ノ欠乏ハ聖靈ノ恩祐ニ依リ第一神ト近接スル事第二
真理ヲ確知スル事第三基督ノ形象己ノ身ニ成ル事等ヲ能クスル
ヲ得バ之ヲ削除スルヲ得ン而シテ之ヲ成スハ祈禱ト断食ニ在ル
ナラン

同四日

日本伝道ニ人物ノ必要ヲ感スルコト甚シ矣願ワクハ在天ノ父ヨ
保羅ノ如キ信仰厚キ伝道師ヲ我國民ノ中ヨリ起シ玉ヘ本年ハ日
本ノ諸教会ニ聖靈ノ恩化アリテ著シキ進歩アランコト殊ニ目下
余カ従事スル新聞雑誌ノ業ニ恩祐アランコトヲ祈ル アーメン
同六日

当日安息日ニシテ会堂ニテ説教ス本年中日々ノ事務左ノ割合ニ

定々

1. 6-7¹/₂ = Prayer, Bible and Philosophical Studies
2. 8-3 = Regular Works of Kaiseisha
3. 3-5 = Exercises
4. 6¹/₂ - 8 = Regular Special Studies
5. 8-9¹/₂ = Chinese, Japanese and Miscellaneous Studies
6. Thursday & Friday nights are to be spent in Bible Class & Prayer Meeting.
7. Saturday afternoon is to be spent in Visitings.
8. In the case of Necessity Monday fore-noon may be used in Visitings.

『小崎弘道自筆集』(10)

〔表紙〕

明治十七年一月

萬事覚帳

〔裏表紙〕

小崎千代

十七年一月六日安息日姜之感スル所ヲ記ス

約翰第一書四章十節われら神を愛するに非ず神われらを愛し我
儕の罪の為に其子を遣してなだめのそなへものとせり是すなは
ち愛なり

約翰第一書三十四章は多く愛に付て書し所なり

希伯來書第六「五」章十二セツヨリ既になんぢらは時をふるこ
と久しければ人の師となるべき者なるに今また神の示し給へる
をしへのはしを教られざるを得ずなんぢらはかたき食物ならで
ちムを用べき者となれり凡そ乳を用る者は赤子なればぎにつけ
るをしへにじゆくせず夫かたき食物は心をはたらかせねりてよ
しあしをわきまへうるおとなの用のもの也

一月廿日 第三京都発の汽車にて神戸へ来る直に澤井氏へ参り
昼飯をおわりて河本氏を尋ねそれより長田氏へ行午後四時半
頃より歩行にて多聞通りより堺町の西村迄来り同店に一泊
ス

廿一日 ハ朝八時半頃より澤井氏へ来り其後女学校並神学校
を尋ぬ。同日午后二時頃諏訪山温泉へ行同夜大隈松本パロ
ス。ダツレー岩根の諸姉来らる

一月廿一日ヨリ澤井氏ニテ食スル物へ
毎日牛乳二合玉子二ツツ、牛肉魚肉野菜
廿二日 ハ午前十一時ヨリ長田兄の案内にて幼稚園へ行く十
二時頃より鈴木氏へ参り夕方帰りそれより風呂呂に行く同日西
原塚本姉来らる

廿三日 ハ午前十時頃より長田氏へ参り午后四時帰宅夕方風
呂へ行く

廿四日 早朝ヨリ雪降ニ付外出ヲ止メ午後二時頃温泉へ行シ
ノミ

廿五日安息日 同日ハ前日の如ク寒氣烈シカリシ故一日宅に居

シ同日堀夫人藤田姉来ラル

廿六日 午前十一時頃塚本氏ヲ訪フ不在ニ付帰途神学校ニ立
寄岡本姉の宅ヲ聞同所へ趣ク続テ鈴木氏へ至リ買物ヲナシ十
二時前帰宅ス 午後ハ二時頃休詣四時過森姉来ラル

廿七日 無事午後ハ入湯ニ行
廿八日 無事ニテ入湯
廿九日 午前十時頃ヨリ諏訪山へ運動ニ行午後ハ海岸通りヨ
リ居留地ヲ廻り所へ運動に行 同日入湯

三十日 氣分あしく一日宅に居午前入湯ニ行キテ髪を洗フ一日
不快ナリシ
三十一日 朝ヨリ雨降ニテ一日宅ヲヲル

〔出納記録〕

金八円 持参

一月廿日

〃 壹円 弘道様へ

一月廿一日

一月廿三日

金四十五銭 岡本 塚本 進物菓子折

〃 八銭 茶わん

〃 五銭 手遊

〃 廿二銭 みかん

〃 七銭 花合

〃 五銭 人力代

一月廿四日

初期の小崎弘道日記 (1)

〃十銭	端書代	一〃七十銭	くしかんざし
〃十銭	湯札	一〃五十五銭	なべ
廿五日		一〃五銭	せんべい
一〃一円	芹川姉へ托ス	一〃三銭五厘	道雄手遊
廿六日		一〃三銭	人力代
一〃三銭	人力代	一〃十銭	湯札
一〃九銭五厘	まり	一〃一円九十一銭五厘	食料
一〃一銭	ふのり	一月廿日より三日迄のメ	
一〃五銭	〇〇〇〇	入金八円也	
一〃四銭	切手	支出七円五十七銭五厘	
一〃三銭	いも	残金四十二銭五厘	
廿九日			
一〃十銭	切手		
一〃五銭	くわし	〇月〇日 帰宅ス	汽車
一〃三銭	ぞうり	一〃四十九銭	パンルイ
一〃六銭	状袋	一〃廿七銭五厘	汽車表
一〃三銭	こぶまき	一〃四銭	人力代
一〃四銭	うどん	一〃十銭	
一〃四銭	うどん		
一〃二銭	髪洗	本日金十円入	
三十一日			
一〃四銭	不足税	十九日	
二日		松山兄ニ 廿銭	海老名姉ニ 十二銭五厘 借
一〃二十九銭	小遣	二月十九日	
三日		金八円	受取

〃十銭

みやげ

〃四十七銭

汽車賃

〃九銭

人力代

〃五銭 ステーションヨリ

人力代

二十日

〃五十銭

小黍五斤

〃三十銭

道雄手遊

〃六銭

人力代

〃八銭

ピン

十七年一月ヨリ五月三日の集会九度其間ニ集りし金高壹円十銭

十五文

其時三四人之者相談して書物を買入て人に貸さんと約束し其為

メニ少しづゝ出金を乞ひしなり

金壹円也

栗津氏

〃五十銭也

岩澤氏

〔『日録第一』統〕

明治十八年一月四日初之

小寄弘道

自省録

一月四日 (日) 晴

余性怠慢事ヲ創メテ之ヲ遂ケサルコト多シ此七八年来日記ヲ

創メタルコト幾回ナルヲ知ラズ而シテ一タヒモ之ヲ永続スル

コトナシ大概永キハ二三十日短キハ二三日ニシテ之ヲ廢ス

ルヲ常トス首ヲ回シテ之ヲ願レハ慚悔措ク能ハサルナリ今度

余警醒社新聞ノ業ヲ止メテ専ハラ直接伝道ニ従事スルニ決ス

是レ豈ニ余一身ノ大要事ナラズヤ偶年華改マルニ際ス將ニ

歲月ト共ニ一身ノ精神品行ヲ一新セントス是ニ於テ更ニ日録

ヲ記スルコトヲ創メ深ク一身ノ性行ヲ誠ムル所アラントス

本年本月初メテ此記事ヲ為スニ当リ来ル六月迄ノ日課事

業ヲ左ニ記シ日々ノ勉強ヲ為スコトアラントス仰キ願クハ在

天ノ父余カ荏弱ナルヲ助ケ此日課ヲ守シメ玉ハンコトヲ

日課

午前六時

出寝

同 六時半

祈禱并読経

同 七時半

朝飯

同 八時

説教支度或ハ著書

同 十一時

漢書或ハ和書

同 十二時

昼飯

午後一時

外出

同 五時半

夕飯

同 六時

体操

同 七時

雑書

同 十時

入寝

此時間割ハ日ノ長短ニヨリ時々変更スルコトアルベシ

一週間之日割

日曜 説教前祈禱、午前十時説教午後二時神田説教夜七時會堂

説教

月曜 午前ハ讀書或ハ知人ヲ訪フ午後警醒社及ヒ信徒見舞

火曜 午前著書午後同前

水曜 午前同前午後信徒及友人ノ來訪ニ応ス

木曜 午前祈禱午後月曜日ニ同シ夜七時祈禱會

金曜 午前説教支度午後信徒見舞夜奧村氏宅ニ於テ會説

土曜 午前祈禱午後遊歩

本年六月末マテニ成スベキ事

一本務 (仰) 教會信徒ヲ一洗シ真ニ基督ノ体タルヘキニ適當スヘ

キ教會ヲ作ル事 (乙) 教會ノ規則ヲ造ルコト (丙) 安息日

学校ヲ改良スルコト (丁) 會堂新築ヲ為ス事

一 余業 政教論ヲ成就スル事尚ホ余暇アラバ希臘教論ヲ著ハス

事 (仰) 神儒仏ノ三道及ヒ政教論ニ関スル書類 (乙) 神学教會

史 (丙) 哲学

同五日 (丙) 曇

余ヤ性甚不規則容易ニ人ト約束シ後チ大ニ之ヲ悔ルコト幾回

ナルヲ知ラズ自今以後容易ニ人ト約セザランコトヲ期ス

本日ヨリ初週ノ祈禱初マル集ルモノ七八人ニ過キズ

同六日 (丙) 晴

同七日 (丙) 午後二時頃ヨリ雪アリ積ムコト凡ソ尺許リ

同八日 (丙) 本日ニ至リテモ雪未タ止マズ積ルコト凡ソ尺

同九日 (丙) 曇 警醒社委員會アリ

同十日 (丙) 晴

自省ルニ己ノ短所甚タ少ラサルモ恐クハ万事ヲ遅延スルノ僻アルヨリ其害ノ大ナルハナカルベシ爾後天父ノ御祐助ニ由リテ此弊習ヲ除カント欲ス

今度警醒社ノ事務ヲ止メ直接伝道ニ従事スルコトニナリタルハ一身ノ大事變ナリ此事變ニヨリテ一身ノ信仰即チ精神ヲ一洗セサレバ此身ノ進歩ヲ見ルノ期ナカルベシ且ツ直接伝道ノ大任ヲ負フ若シ使徒ノ信仰アルニアラスンバ何ヲカ為スヲ得ン今一身ノ信仰ヲ一洗シ伝道ヲ為スノ力ヲ得ル為メ來一週ハ午前緊要ノ時間ヲ以テ祈禱及ヒ黙念ノ時ニ充テントス願クハ父ヨリ此僕ヲシテ此事ヲ為サシメヨ

同十一日 (丙) 晴

會堂ニ於テ愛ハ「宗教ノ本」ト云フ題ニテ説教ス(約翰十四、二十三) 聖晚餐ノ式アリ松山高吉氏之ヲ司ル本日集ルモノ三十余人ニテ甚タ少数ナリ午後神田説教所ニ行ク

本日ヨリ自宅ニ於テ馬太伝ノ會説ヲ始ム但シ毎日曜日午後七時ヨリ

同十二日 (丙) 雨

土曜日ニ定メタル通り祈禱ス自ラ信仰ノ薄キヲ感スル甚シ

牧師或ハ伝道師タル者ノ第一ノ務ハ信徒或ハ未信徒ノ為メニ祈禱スルニ在ルヲ感ス

今夜朝鮮ノ談判平和ニ結了シタル報知着ス

同十三日 (丙) 晴

午後青年會ノ會議ヲ開キタル人少クシテ會議ヲ開クヲ得サリ

シ

同十四日 (水) 晴

今朝ヨリ毎朝同日中ニ為スヘキコトヲ前以テ定メ置クヘキコトヲ定ム午後清岡氏ヲ訪フ

同十五日 (木) 晴

午後警醒社ニ出テ帰路鈴木氏ヲ訪フ夜祈禱会ニハ集ル人甚ダ少シ

同十六日 (金) 晴

夜奥村氏宅ニ於テ集リヲ為ス外ヨリ来ルモノ僅ニ二人
同十七日 (土) 晴

午後羅馬字会ノ相談会ニ赴ク

同十八日 (日) 晴

午前会堂松山氏ノ説教アリ集ルモノ四十余人午後神田ノ集リニハ学校ノ生徒多ク来レリ夜自宅ノ会談ハ其模様前会ニ異ナラス

同十九日 (月) 晴

本日井上大使帰朝ス午後警醒社ニ至ル後フオールズ氏ヲ訪フ夜ニ入りテ帰宅ス

同二十日 (火) 晴

午後哲学会ニ出席ス夜岡部氏ヲ訪フ

同二十一日 (水) 晴

午後荒井氏ヲ訪フ

同二十二日 (木) 晴

午後警醒社ニ出テ後上野氏ヲ訪フ此夜祈禱会アリ頗ル愉快ナル集ナリシ

同二十三日 (金) 晴

午後佐々木東洋氏ヲ訪ヒ各其信スル所ノ宗教ヲ論シ清談時ヲ移シ晚餐ノ饗ヲ受ケ帰セリ夜奥村氏ニ於テ集アリ集ルモノ五六人

同二十四日 (土) 晴

午前社ニ出テ午後青年会ノ集ニ之ク役員ノ改撰アリ再ヒ幹事ノ撰ニ当ル之ヲ辞シタルモ他ニ人ナキヲ以テ止ムヲ得ズ之ヲ受ク

同二十五日 (日) 午後ヨリ雨アリ

会堂ニ於テ説教ス集ルモノ凡五十人午後神田ニ於テハ松山兄説教ス夜会説アリ八九人集ル前一週間ハ毎朝早く起テ一身教会及全国ノ為ニ祈禱ス稍神恩ヲ感シタルカ如シ尚ホ此一週ハ一層熱心主ノ恩祐ケ祈ラント欲ス

同二十六日 (月) 晴

午後印度人ジョーシー氏来訪ス同氏ハ仏教徒ニテ世界漫遊ヲ志セルモノナリ夜同氏ヲ伴テ渡邊氏ヲ問ヒタレトモ渡邊氏同氏ヲ世話スルヲ辞シタレバ止ムヲ得ズ自宅ニ一泊セシム昨日大山陸軍卿帰朝ス

同二十七日 (火) 曇

午後木全和田ノ二氏ヲ問フ

同二十八日 (水) 曇

此日朝ヨリ暴風アリ寒烈幾ト他出ス可ラサル程ナリシ

同二十九日 (木) 晴

午前湯浅兄来ル午後警醒社ニ出ツ又築地宣教師二三名ヲ問フ夜祈禱会アリ集ルモノ十余人頗ル熱心ナル祈禱ヲ為ス

同三十日 (曇) 曇

午後松山兄寓ニ友人四五輩相会シ各飲ヲ尽ス七時過キヨリ奥村氏宅ニ於テ聖書会読ヲ催フス

同三十一日 (出) 晴

二月一日 (日) 晴

午前九時安息日学校同十時説教集ルモノ四十七八人午後神田ニテ説教ス来会者前週ニ異ナラズ夜自宅ニテ会読アリ来会者甚タ少シ

同二日 (月) 雪

同三日 (火) 晴

午後ヨリ松山兄ト共ニ小石川九鬼氏ヲ問フ同氏不在松山兄ト分レ阪部氏三原氏ヲ問フ又三原氏ト共近頃米國ヨリ帰國シタリト云フ芝氏ヲ問フ

同四日 水 晴

同五日 木 晴

午後ヨリ学農社岩本氏ヲ問フ

同六日 金 晴

午後三時ヨリ教会役員ノ集アリ来ル十五日ニ相談会ヲ開キ左ノ数件ヲ議決スルニ定ム即チ会堂新築之事出金ノ約ヲ新ニスル事貧病院之事午後五時比久シク米國ニ留学シタル赤峯源一郎氏来訪ヲ珍客アルヲ以テ此夜日吉奥村ノ集ニ行クヲ見合ハス

此日久シク困難ニ罹リテ我家ニ居タル板野氏此地ヲ出発シテ帰路ニ就ケリ

同七日 土 晴

午後聖書翻訳委員ノ集アリ役員ヲ改撰ス且ツ英国聖書会社ニテ日本委員ノ發議シタル方法ニ從ヒ翻訳ニ従事セシムルコトヲ承諾シタルノ返事アリシヲ聞ク後宇野氏及和田垣氏ヲ訪フ但シ宇野氏ハ不在ナリシ

同八日 日 晴

午前会堂ニテハ浮田氏説教ス来会者凡ソ平常ノ如シ午後神田ニテ説教ス集ルモノ凡ソ十人夜宅ニテ会読ヲ催スル常ノ如シ同九日 月 雪 昨夜ヨリ降り続キ積ムコト凡ソ四五寸去月七日ノ雪ニ次キテノ大雪ナリ

近頃自ラ省ルニ己ノ信仰ノ薄キ愛心ナク且ツ主ノ為メニ尽スノ義乏シキヲ感スルヤ切ナリ且ツ教会中ノ有様ヲ視ルニ睡レルモノ多ク生ケル信仰アルモノ甚タ少シ從テ教会ノ進歩甚タ遅々タルヲ覺フ然ルニ教外ノ有様ハ益進テ國民拳テ我教ヲ受クルノ時遠キニアラサルカ如シ斯ノ如キ不熱心ノ教会信徒ニシテ如何ニシテ之ヲ受クルヲ得ン斯ノ如キ信仰薄キ僕ニテ如何ニシテ主ノ榮光ヲ現ハスヲ得ン之ヲ思ヒ之ヲ懷ヘバ慷慨悲憤ノ情ニ咽ブノミ嗚呼如何セハ可ナラン唯皇天ニ号泣シテ上ヨリノ楯ヲ乞フノミ余深ク愛ニ感スルアリ明日ヲ期シ此一週間内ハ断食祈禱シ以テ聖靈ノ恩祐ヲ請ハントス仰キ希クハ三一ノ御神ヨ余カ在弱ナルヲ佑ケ此祈願ヲ遂ケシメラレンコトヲアーム

同十日 火 晴

此日午前七時前ヨリ伊藤參議ヲ訪フ同公ハ前日ヨリ熱海ニ赴キ留主ナリキ帰途赤阪氷川神社ニ至テ祈禱ス

夜出島氏ヲ訪フ清談時ヲ移ンテ帰ル

同十一日 水 晴

午前芝増上寺山内ニ至テ祈禱ス帰路青松寺ノ住職ヲ訪フ

同十二日 木 晴

午前基督教新聞ノ為メ原稿ヲ草ス夜祈禱会アリ

同十三日 金 晴

午前宅ニ於テ祈禱ス午後三時粟津宅ニ於テ婦人集アリ夜奥村氏ニ行テ集ヲ為ス此日午後ヨリ風アリ夜ニ至テ尤モ甚シ

同十四日 土 晴

午前芝山内ニ行テ祈禱ス

午後日吉町松山兄ヲ訪ヒ夜ニ入テ帰ル

同十五日 日 晴

午前会堂ニ於テ説教ス集ルモノ凡五十名説教後教会ノ相談会ヲ開ク午後ハ身体少シク疲労セシヲ以テ神田部ノ説教ヲ加藤兄ニ託ス夜常ノ如ク会読アリ

同十六日 月 晴 風頗ル強シ

同十七日 火 晴

同十八日 水 晴

此日神田北原氏ヲ訪フ此夜ヨリ約翰伝会読ヲ始ムルコトニ決ス

同十九日 木 晴

夜祈禱会アリ

同廿日 金 晴

午後東京大学哲学会ニ臨席ス夜例ノ如ク奥村氏宅ニテ聖書会読アリ

同二十一日 土 晴

同二十二日 日 晴

午前松山兄説教集ルモノ凡ソ五十名午後例ノ如ク神田ニ行ク

夜ハ亦自宅ニ会読ヲ催フス

同二十三日 月 晴

同二十四日 火 晴

午後鈴木氏ヲ訪フ留主ナリシヲ以テ神学校ニ行テ読書ス又グ
一デ女ヲ訪フ

夜旧約聖訳委員ノ会アリ外国ノ委員等訳者ノ月給ヲ四十

円トシ松山君家族移転ノ為ニ五十円迄ヲ給与スヘキヲ決議セ

シヲ以テ其ノ理由ヲ尋問スルコトニ決ス

同二十五日 水 雨

午前築地マゴドナルド氏ヲ井深氏ト共ニ訪フ翻訳事件ノ為メ
ナリ午後三時日吉町松山兄宿ニ於テ警醒社ノ委員会ヲ開ク

夜聖書ノ会読ヲ開ク信徒ノ為メナリ

同二十六日 木 晴

午後四時ヨリ再ヒ翻訳委員会ヲ開ク日本委員ハ外国委員ノ議

決ニ同意スル能ハサルコトヲ答フルコトニ決ス

夜祈禱会アリ

同二十七日 金 曇

午後婦人ノ集アリ又夜ハ奥村氏宅ニテ聖書ノ会読アリ

同二十八日 土 晴

本日全権大使伊藤公清国ニ向テ発ス午後浅草井生村樓ニ於テ
説教会アリ何ヲカ基督教ト云フ題ニテ演説ス近来身体稍疲労

シ精神不活潑ナルヲ以テ思ハシク演説スル能ハサリキ當日集

ルモノ凡ソ四五百人ナリシ
午後四時ヨリ又聖書翻訳委員ノ相談会アリタリ

三月一日 日 晴

本日会堂ニテ聖晚餐ノ式アリ集ルモノ凡ソ六十余名教会ハ基
督ノ体ナリト云フ題ニ説教ス午後ヨリ神田ノ説教所ニ行キタ
レトモ一人モ来ラサリシ夜ハ宅ニテ会説ヲ催フセリ此日男一
人洗礼ヲ受ク

同二日 月

同三日 火

同四日 水

午前森有礼氏ヲ訪フ

夜会説ヲ催フス

同五日 木 雨

午後四時聖書委員ノ集会アリ夜ニ入りテ帰り祈禱会ニ出ル能
ハサリシ

同六日 金 小雨

京都ヨリ会堂ノ為メ米田ヨリ五百弗寄附スル旨報知アリシヲ
以テ午後四時ヨリ会吏ノ相談会ヲ開ク先ツ地所ヲ定メ後ニ寄
附金ヲ募集シ成ルヘク大ナル会堂ヲ築クコトニ決ス此夜日吉
町奥村氏会説ノ定日ナレドモ遂ニ行クヲ得サリシ

同七日 土 晴

午前赤峯加藤ノ両氏来訪ス同十一時ヨリ家ヲ出テ加藤兄ト共
ニ津田道太郎氏ヲ訪フ途次岡部氏ヲ訪ヒ又外ニ五氏ヲ訪ヒタ
レトモ津田岡部両氏ヲ除クノ外皆ナ不在ナリシ

同八日 日 晴

午前会堂ニテ松山兄説教ス集ルモノ凡ソ四十余人午後青山学
校ノ要メニ応シ行テ説教ス夜例ノ如ク宅ニ於テ会説アリ

同九日 月 晴

午後警醒社ニ至リ築地ニ至ル帰路三浦得一郎氏ヲ訪フ又植村
兄ト途中ニ相会ヒ井深兄ヲ問フ午後十二時前ニ帰宅ス

同十日 火 晴

同十一日 水 小雨

午前福沢氏ヲ訪ヒタレトモ面会セズ帰路津田高寄ノ両ヲ訪フ
タレトモ皆ナ留主ナリシ

夜会説アリ

同十二日 木 風

午後四時ヨリ祈禱会アリ

同十三日 金 風

此日朝ヨリ不快夜ニ至テ熱ヲ発シ頭痛甚シ遂ニ午後婦人ノ集
ニ出ル能ハサリシ此日京都グリーン氏来ル

同十四日 土

終日臥床ニアリシ

同十五日 日 晴

未快復セサルヲ以テ会堂ニ出ズグリーン氏説教集ルモノ頗ル
多シト云ヘリ

同十六日 月 強雨

今朝初メテ床ヲ出ツ午前松山植村グリーンノ三氏来訪ス要談
時ヲ移シテ去ル午後築地神学校ニ至ル但シ外国聖書翻訳委員
ト会セシ為メナリ途中松山兄宿ニ寄り午後十時比ニ帰宅ス

同十七日 火 風

午後三時ヨリ翻訳委員集会ノ為メ松山兄宿ニ至ル

同十八日 水 晴

夜会読ヲ催ス

同十九日 木 晴

此日午後ヨリ哲学会ニ臨ム南條文雄氏印度哲学中教論ノ講義

ヲ為ス帰路北原氏及和田垣氏ヲ問フ

同廿日 金 午後七時ヨリ雨アリ来ル二十二日ニ高野重三兄米

国ニ向テ出発スルヲ以テ栗津宅ニ於テ午後二時ヨリ送別会ヲ

催ス

夜奥村氏宅ニ於テ聖書ノ会読ヲ開ク

同二十一日 土 晴

同二十二日 日 晴

会堂ニ於テ講義ス午後三時神田淡路町水野氏宅ニ於テ講義ヲ

為ス此日初メテ佐柄木町ノ講義場ヲ茲ニ移シタリ

夜ハ又例ノ如ク会読ヲ為ス

同二十三日 月 晴

午前青江秀君ト共ニ森有礼氏ヲ問フ午後遊歩ス

同二十四日 火 雪

雪降りシヲ以テ終日宅ニ在リテ読書或編輯モノヲ為セリ

同二十五日 水 晴

午後教会ノ人二三名ヲ訪ヒタレドモ皆ナ留守ナリシ夜ハ会読

アルヘキ筈ナレバ備ヲナシテ待チケルニ時間ヲ過キテモ一人

ノ来ル人ナシ依テ其時間ヲ一己及ヒ教会ノ為メノ祈禱ニ費セ

リ自ラ一身ヲ省ルニ実ニ其信仰熱ナラス冷ナラサル有様ニテ

唯基タ恥ルノミ又教会及ヒ教ノ全体ヲ察スルニ活信ノモノ少

ク何トナク道ノ進歩甚タ遅々タリ如何セバ可ナラン乎到底人

力ノ及ブ所ニアラズ唯不治ノ病ヲ即時ニ医シ死人ヲ直ニ甦ラ

スノ力アル神ニ頼ムノミ願クハ憐ニ富ミ給フ神ヨ何卒ゾ御約

束ニ従ヒ此僕ヲ省ミ給ヘ何卒ゾ我國ノ信徒ヲ生カシ給ヘ

アーメン

同二十六日 木 曇

千代事去ル二十一日ヨリ病氣ニテ本日ハ稍重キニ付外出セズ

但シ流行ノ癩疹ナリ

午後四時ヨリ祈禱会アリ集ル人少ケレトモ有益ナル会ナリシ

同二十七日 金 曇

午後七時ヨリ奥村氏宅ニ於テ会談会アリ午前俗事ニテ費セリ

同廿八日 土 晴

午前ハ築地ニ行ク午後ハ在宅セリ但シ妻病氣ノ為メナリ

同廿九日 日 晴

午前会堂ニテ松山兄説教ス集ルモノ凡ソ四十余人ナリ午後神

田淡路町ニテ羅馬書ノ会読ヲ初ム夜馬太伝ノ会読アリ

同三十日 月 晴

本日ヨリ毎朝七時ヨリ栗津氏宅ニテ祈禱会ヲ開ク但シ一己人

ノ信仰及ヒ教会ノ為メニ祈ラン為メナリ

同三十一日 火 曇

午後今西原両氏ヲ訪フ

四月

四月一日 水 雨

夜会読アリ

同二日 木 雪

朝例ノ如ク祈禱会アリ午後又四時ヨリ祈禱会アリ集ル人多カラサレトモ有益ナル会ナリシ

同三日 金 曇

午後外出ス五時ヨリ教会々々吏ノ集会アルヘキノ処来ル人ナキヲ以テ会ヲ開クヲ得サリシ

同四日 土 雨

午前ヨリ丸屋銀行債主ノ集会ニ臨ム午後運動ニ費ス

同五日 日 雨

午前会堂ニ於テ説教ス稍其ノ説教ニ恩化アリタルカ如シ万群ノ主ナル耶和華ノ神ニ深ク感謝ス尚ホ此ヨリ余カ説教ニ力アリ且ツ教会ノ人皆ナ聖靈ノ恩化ヲ蒙ランコトヲ祈ル本日集ルモノ凡ソ四十人許リナリシ

午後神田ノ集ニ行ク集ルモノ凡ソ十五六名ナリシ掃路石井氏ヲ訪フ同氏ハ難病ニテ迎テモ全快ノ見込ナキカ如シ種々慰藉

ノ語ヲ發シ祈禱ヲ為シテ帰ル

夜自宅ノ集リニハ来ル人甚タ少カリシ

同六日 月 雨

午前午後共読書編輯ニテ時ヲ送ル

同七日 火 雨

午前十時比北原種忠氏父石井君死去セシ旨報シ来レルヲ以テ直ニ行テ諸事世話ス人生ノハカナキ風前ノ燈ノ如シ一昨日マデ愉快ニ話ヲ為セシ人モ今ヤ彼ノ世ノ人トナル感慨少カラズ午後七時帰宅ス

同八日 水 曇

本日午後二時ヨリ石井氏ノ葬式アリ生之ヲ可ル青山ノ墓地ニ葬ル七時頃帰宅ス夜会読アリ

同九日 木 雨

祈禱会アリ

同十日 金 雨

会吏ノ集リアリ教会ノ進歩ヲ談ス

同十一日 土 曇

大阪ノデフオレスト氏及宮川氏安中ニ至ルノ途次立寄ラル

同十二日 日 午後ヨリ雨

デフオレスト氏説教ス集ルモノ凡ソ五十余名此日次ノ安息日ヨリ安息日学校ノ規則ヲ定ムルコトニ決ス午後神田ノ集リニ至ル集ルモノ甚タ少シ

同十三日 月 雨

午前七時家ヲ出デ中島ノ御祖母様等ト上州前橋ニ至ル午後一時過着午飯ヲ喫シ新築会堂奉堂式執行ノ為メ会堂ニ至ル幅四間奥行五間ニテ通常百五六十人ヲ容ル、ニ足ル其建築費凡ソ三百五十余円ナリト云フ其式ハ初メニ木村君聖書ノ朗読余奉堂祈禱デフオレスト氏説教宮川氏祝詞夜ハ説教会アリ木村山田ノ両氏ト余之ヲ務ム此夜大ニ疲労シ就眠スル能ハサリシ昼夜共頗ル盛会ナリシ

同十四日 火 晴

午前九時前橋ヲ出デ汽車馬車ニテ午後一時頃安中ニ着ス二時過ヨリ牧師解職并就職ノ調アリ一同不都合ナキコトニ決ス夜其式アリタレドモ余ハ頭痛并ニ齒痛ニテ之ニ列スル能ハサリシ

同十五日 水 晴

デフオレスト、星野、山田、杉田ノ四氏ハ松井田ノ説教会ニ到ル宮川海老名ノ阿氏ト余ハ止テ安中会堂ノ説教会ニ出席ス集ルモノ凡ソ二百余名アリシ

同十六日 木 曇

午前九時ヨリ原市会堂ノ奉堂式アリ海老名兄奉堂ノ祈禱デフオレスト氏説教宮川兄祝詞外ニ安中及ヒ後箇村信者数名ノ祝詞アリ新築ノ会堂ハ幅五間長七間ニシテ入口ノ方ニ二階アリ凡ソ四百人ヲ容ルヘキ大堂ニシテ其建築頗ル壯麗ナリ

午後説教会アリ山田海老名北原星野ノ諸氏ト余説教ス北原氏ハ仲仙道ヲ經テ京都ニ至ルノ途次茲ニ立寄ラレシモノナリ夜

安中ニ帰湯浅氏ニ投ス

同十七日 金 曇夕ヨリ雨

午飯ヲ喫シ海老名山田ノ阿氏ト外一名前橋信徒ト富岡ニ到ル安中ヲ去ル凡ソ三里午後三時過キニ同地ニ着ス

夜同地ノ劇場ノ二階ニテ説教会アリ星野山田海老名ノ三氏ト共ニ説教ス聴衆堂ニ満ツ凡三百名ナリシナラン皆ナ謹聴セリ

此夜信州屋ニ泊ス

同十八日 土 曇

午前九時比ニ同地ヲ発シ板鼻ニテ午飯ヲ喫シ馬車ニ乘リテ右諸氏ト共ニ高寄ニ至ル

夜同地ノ会堂ニ於テ説教会アリ海老名杉田ノ阿氏ト共ニ演説

ス聴衆凡ソ百名皆ナ謹テ聴聞ス山田氏ハ板鼻ヨリ分レテ原市

ニ帰ル此夜岡本氏ニ投ス

同十九日 日 晴

午前九時同地ヲ発シテ前橋ニ至ル湯浅兄ノ宿鍋屋ヲ宿トス午後同地ノ会堂ニ至ル海老名兄講義ス夜又會堂ニテ海老名兄ト共ニ説教ス

同二十日 月 雨

午前七時前橋ヲ発シ腕車ニテ高寄ニ至リ之ヨリ汽車ニテ東京ニ帰ル此行身体疲勞シ頭痛齒ニ悩マサレ愉快ニ主ノ為メニ働ク能ハサリシヲ遺憾トス今ヤ田園已ニ熟セルニ之ヲ收穫スルナキハ甚タ残念ノ至リニナラズヤ余儕收穫ノ主ニ多クノ收穫者ヲ送ラレンコトヲ祈ラサル可ラス

同二十一日 火 雨

此日午前ヨリ出デ松山兄押川兄ヲ訪ヒ夜海老名、杉田、星野ノ諸兄ト兼テ約束アリタル井深兄宅ニテ開設セル、集ニ赴ク此会ハ日本全国ノ教会ヲ一致セシメントノ有志者ノ相談会ナリシ色々ノ説出デ十二時過キマデ集レリ此ヨリ先キ高知ノ伝道ヨリシテ一致教会ト関西諸教会ノ間何トナク面白シカラズ互ニ不愉快ヲ感スルコトアリ今夕此会アリシモ其模様之ニ現ハレ面白シカラヌ有様ナリシ此一致ノコトハ望マシキコトナレトモ或ハ行ハレサランコトヲ恐ル人心ノ荏弱ナル実ニ恐ルヘキ哉然レド此会ニテ之ヲ行フニ付井深兄ニ此ノ事ノ通信ヲ委頼シ植村兄ト余其規則ノ草案ヲ作ル委員トナリ互ヒニ此議ヲ主張スヘキコトヲ約シテ散ス

同二十二日 水 曇

押川氏及海老名氏帰略ニ就クヲ以テ午前ヨリ出テ右阿氏ヲ訪フ午後帰宅スタ刻出テ二三ノ兄弟ヲ訪フ

同二十三日 木 曇

初期の小崎弘道日記 (1)

午後四時ヨリ祈禱会アリシ

同二十四日 金

夜奥村氏宅ニテ聖書ノ会説アリシ午後二時ヨリ婦人集会アリ
タリ

同二十五日 土 雨

同二十六日 日 晴

午前九時會堂ニテ説教ス集ルモノ凡ソ四十七八人午後例ノ如
ク神田ニ行テ説教ス

同二十七日 月 雨

午後ヨリ出テ神田氏ヲ訪フ余ハ明日ヨリ京都ニ発程スルノ用
意ヲ為ス

同二十八日 火 晴

午前九時宅ヲ出ツ九時五十分ノ汽車ニテ横濱ニ至リ午後二時
新瀉丸ニ乗込同四時過出帆ス同行杉田潮兄ノ外安中ノ信徒三
名ナリ

同二十九日 水 午後ヨリ雨

午後ヨリ風雨アリ午後九時十時ニ至テ尤モ甚シ暈フモノ多シ
同三十日 木 晴

午前十二時比神戶ニ着ス直ニ旅宿奥山氏ニ至ル船ノ遅延シタ
ル風波ノ強カリシ故ナリ此夜杉浦氏宅ニ於テ伝道会社集会ノ
内相談アリ川本氏ニ投宿ス此日久フリ旧友ニ遇フタルヲ以テ
歡喜斜ナラス

五月一日 金 晴

午前九時ヨリ多聞教会々堂ニ於テ伝道会社ノ集会初マル各地

ヨリ來レル三十余名ノ委員着席先ツ書記前年度会計事務ノ報
告ヲ為シ後書記ノ改撰ヲ為ス宮川、綱島、村上ノ三氏当撰午
後議事ヲ開キ土州福井福岡若松等ニ伝道ヲ為スコト并ニ関東
ニ伝道委員二名ヲ置キ関東ノ伝道ヲ管轄セシムヘキコトヲ議

ス夜各地ノ委員及信徒ノ親睦会アリタリ

同二日 土 晴

午前九時半ヨリ開會基督教會組合ノ規約ヲ議決ス
午後諏訪山ニ於テ委員及信徒ノ親睦会ヲ催フス

同三日 日 晴

午後二時ヨリ多聞教会ニ於テ説教及聖晚餐ノ式アリ余説教ヲ
為シ二宮星野ノ両氏晚餐ノ式ヲ司ル本日集ルモノ五百余名希
有ノ盛會ナリシ

夜神戸教会ニ於テ竹原市原金森三氏ノ説教アリタリ聴衆堂ニ
満ツ

同四日 月 晴

午前九時ヨリ原田助兄按手礼ノ試験アリ同十二時神戸教会ヨ
リ委員一同ニ洋食ヲ供ス
午後二時ヨリ按手礼式ヲ執行ス

同五日 火 雨

午前十二時ノ汽車ニテ京都ニ行ク午後三時過キ京都新島先生
宅ニ着ス

夜ゴルドン教師宅ニ於テ内外教師伝道士伝道上ノ懇談会アリ
タリ

同六日 水 晴

午前同志社ニ至リ友人ニ面会ス午後下賀茂ニ行テ遊ブ

同七日 木 晴

午前九時ヨリ精密局跡ノ仮屋ニ於テ大親睦会ノ祈禱会ヲ開ク
十時ヨリ議事ニ着手ス各地教会ノ委員凡テ七十六名ナリ大儀
見兄議長宮川兄副議長ニ当撰ス親睦会ノ順序修正委員ヲ撰ミ
之ヲ修正セシムルコトニ決ス

同午後七時半ヨリ祈禱ノ事ニ付キ懇談会ヲ開ク伊勢兄先ツ之
ヲ發議シ後チ各委員互ニ其意見經驗ヲ述ブ其精神頗ル盛シナ
リ

夜報告会ノ代リニ感話会ヲ為ス余リ面白ラサレハ甚タ遺憾ナ
リ

同八日 金 晴

午前八時ヨリ大親睦会場ニ於テ祈禱会同九時ヨリ議事ヲ開キ
第壹号議案基督教徒同盟会規則ヲ議決ス議事正ニ欄ナル比二
三時ノ兄弟同志社ヨリ感ヲ述ヘンコトヲ乞ヒタレドモ議事最
中ナルヲ以テ午後ノ会ニテ之ヲ聞クコトニ決ス蓋シ奥野氏ハ
本日早朝ヨリ同志社ニ至リ生徒ニ勸ヲ為シ一二十名ノ生徒ヲ
伴テ吉田山ニ上リテ祈禱ヲ為セシガ之カ為メ信仰ヲ復興セシ
モノ少カラサリシヲ以テナリ

午後二時ヨリ同処ニ於テ懇談会ヲ開ク其發議者ハ森本介石氏
ナリシモ病氣ヲ以テ辞セラレタルヲ以テ余之カ代リトナリタ
リ其題ハリバイバルナリ数名ノ人引統キテ勸メヲ為シ祈禱ヲ
為ス其精神常ニ異ナリテ實際ノリバイバルトナリタルカ如シ
恩寵ニ富メル神ニ感謝ス此時ニ及ビ此恩化アルヲ仰キ願クハ
全能ノ神ハ此恩寵ヲシテ空シクナラズ多クノ果ヲ結ハシメン
コトヲ

夜祈禱会アリタリ祈禱ノ精神甚タ感ニシテ司會者ハ之ヲ御ス
ルニ甚タ苦メリ

同九日 土 晴

午前八時ヨリ九時迄同前九時ヨリ十二時迄議事二三ノ要件ヲ
議決ス同十二時洛東ノ中村樓ニ午飯ヲ饗セラル委員等皆ナ西
京信徒ノ懇ギンナル待遇ニ感セリ食事終リテ聖書翻訳ノ事及
ヒ警醒社ノ事ニ付委員諸氏ニ相談ヲ為セリ後ニ写真ヲ撮ラン
トセシモ写真屋ノ来ルコト遅引セシヲ以テ止メニナレリ

夜七時半ヨリ懇談会ヲ開ク杉浦稲垣ノ両氏發議者トナリ内國
伝道ノ事ヲ談ス委員等替リ々立テ其意見ヲ述ヘ時ノ移ルヲ
覺ラサリキ後クリスマスノ事ヲ談セントセシモ時間ナキヲ以
テ遂ニ止メニナリタリ

同十日 日 雨

午前九時ヨリ仮会場ニ於テ開会奥野教師説教非常ナル感格ヲ
以テ話サレタレトモ稍作意ニ過クルカ如キ処アリシヲ以テ問
々奇異ナル感情ヲ得タルモノアリシ後小川氏ノ聖晚餐式執行
ハ先ツ殊勝ナリシ

午後二時石原大儀〔見〕ノ両師ト余説教ヲ為セリ何レモ不出
来ニハアラサレドモ目下ノ現状ニハ少シク不適當ノモノナリ
シカ如シ

同十一日 月 晴

午後七時半ヨリ四条北ノ劇場ニテ演説アリ夜ハ同七時半ヨリ
演説アリ孰レモ熱心ナル演説ナリシ由本日ノ演説会ニハ余ハ
臨マサリシ

同十二日 火 晴

午前九時各会ノ委員等知恩院ノ門前ニ於テ写真ヲ撮ル
午後七時半ヨリ前日ノ如ク演説アリ

昼夜九名ノ演説者替ル〜立テ演説ス頗ル熱心ナル演説ニテ
聴衆ヲ感動セシコト少カラサリシ

同十三日 水 晴

此日午前六時ヨリ六七輩ト新島先生ノ宅ヲ出テ寄生木座ニ至
リ十五六人ノ友人ニ会シ共ニ腕車ニ乗テ丹波亀岡ニ至ル同地
ニ着セシハ午前十時比ナリキ之ヨリ四艘ノ舟ニ乗テ保津川ヲ
下ル其流ノ急ナル山ヲ上ルカ如シ兩岸ノ勝景ハ仙洞トカ疑ハ
ル十二時過キ嵐山ニ達ス茲ニハ予テ待テ受ケタル同志社ノ生
徒外信徒三百余名歡ヲ尽クシテ遊ビ居タリ茲ニテ共ニ□ヲ食
シ祈禱ヲ為シ歡ヲ尽クシテ帰レリ

同十四日 木 晴 休息ス

同十五日 金 晴

本日同志社学校ノ相談ノ為メ二三ノ友人相会シテ清談ヲ為セ
リ

同十六日 土 晴

本日ハ大阪演説会ニ招ヲ受ケタルヲ以テ之ニ行カント欲シタ
ルモ同志社ノ相談尚ホ尽キタル故ニ止ント朋友ノ止ルニ任セ
尚ホ二日滞留セリ夜第一教会ノ説教所ニテ説教ス

同十七日 日 晴

午後二時第二教会々々堂ニテ説教ス本日ハ過日ヨリノ疲労重リ
シト見ヘ如何ニ説教ノ支度ヲ為サントスルモ為ス能ハズ甚タ

困難ヲ極メタリ

同十八日 月 晴

午前七時ヨリ伊勢金森ノ二兄ト共ニ京都ヲ発シ大阪宮川兄ノ
宅ニ至ルギユリキ、テイラル、デフォレスト、オルチン諸氏
ヲ訪フ夜川口監督教会ニ於テ大阪諸教会ノ聯合祈禱会アリ之
ニ臨ミ聊カ感スル所ヲ述フ

同十九日 火 晴

午前八時宮川兄ト梅花女学校ニ至リ聊カ感スル所ヲ生徒ニ告
ク同九時過キヨリ神戸ニ至ル同日出発ノ船ニ乗リテ帰京セシ
ガ旅店安藤氏ニテ稲垣氏ニ会フ又偶神戸教会ノ余儕ヲ止メ勸
メテ請フアリ止ムヲ得ズ之ヲ諾シ同夜神戸教会堂ニ於テ稲垣
伊勢金森ノ三兄ト共ニ勸メヲ為ス集ルモノ五百余名頗ル感動
ヲ起シタルカ如シ感謝スヘキコトナリ

同廿日 水 晴

本日ハ是非共帰京スヘカリシ所多聞教会ノ模様頗ル患フヘキ
コトアルヲ聞キ之ガ為メ聊カ力ヲ尽サント欲スルコトアルト
本日出帆ノ船宜シカラザルトニ由リ又一日滞留スルコトニ決
シタリ是ヨリ先キ旅店安藤氏ハ多聞教会ノ会員ナリシモ牧師
会員ニ対シ不平ヲ抱クコトアルヨリ其信仰甚タ冷カニナリ幾
ト迷ハントシタリシガ稲垣兄及余ノ勸メニ依リ夫婦トモ大ニ
前非ヲ悟ルアリ又杉浦氏ニ勸メシニ同氏モ稍悟ル所アリシヲ
以テ同夜多聞会堂ニ於テ祈禱会ヲ開クコトニ決セリ午後八時
比ヨリ祈禱会ヲ開キ杉浦氏先ツ開会ノ趣意ヲ述ベ祈禱ヲ為シ
次キニ余勸メヲ為シ祈禱ヲ為シ次テ稲垣氏又勸メヲ為サレタ
ルニ満場ノ感動一方ナラズ或ハ叫テ己ノ罪ヲ認ムルモノアリ
或ハ涙ヲ流シテ教会ノ為メニ祈ルモノアリ実ニペンテコスト
ノ如キ状態ヲ呈出セリ午後十一時過キニ至リテ司会者稍ク之

ヲ止ムルヲ得タリシ嗚呼生ケル我儕ノ神ヨ我儕ノ如キ罪人ノ
祈リヲ聽キ給ヒシコトヲ感謝スアーメン

同廿一日 木 晴

午後一時山城丸ニ乘リテ神戸ヲ発ス安藤夫婦ハ神ノ御恩籠ヲ
蒙リシヲ深ク喜ビ余輩ニ大ナル親切ヲ尽シ同会ノ信徒等六七
輩余儕ヲ船ニ送ル其愛情各面ニ溢レキリストノ愛油然トシテ
各信徒ノ上ニ現ハル実ニ其愉快云ハン方ナカリシ
神戸ヲ出テ海上実ニ穩ニシテ坦路ヲ行クカ如シ

同二十二日 金 晴

本日前日ト同シク海上更ニ風波ナク且ツ其航行モ甚タ速ニシ
テ午後三時比横濱ニ着ス余數船ニ乘リシト雖今回ノ如キ平穩
ナリシハ未曾ヲ見サリシ所ナリ

茲ニテ稲垣氏ト袂ヲ分チ余ハ六時ノ汽車ニテ帰宅ス

教会ニテハ二週前ヨリ毎夜祈禱會ヲ催フシ本夜モ開會中ナリ
シヲ以テ晚餐ヲ終ヘ直ニ之ニ臨ミ久シフリニ兄弟二面ヲ合セ
大親睦會ノ形況ヲ述ベ曾テ感セシ所ニ付キ勸ヲ為ス皆ナ歎テ
之ヲ受ケラル十時比ニテ祈禱會ヲ卒ユ之ト久シク面ヲ合ハセ
サリシ妻女ニ會ヒ纏々懇談ヲ為セリ

同二十三日 土 晴

午前午後二三ノ教友ヲ訪ヒ夜ニ至テ又祈禱會アリ頗ル盛ナル
會ナリシ

同二十四日 日 晴

午前十時ヨリ今ハ恩籠ノ日ナリトノ題ヲ以テ説教ス集ルモノ
凡ソ五十余名會中頗ル感動ヲ起セシモノアリシカ如シ午後三
時神田ニテ講義ヲ為スヘキノ処人少キヲ以テ祈禱會ヲ開キタ

リ夜ハ長坂下ノ會堂ニ行イテ英人某氏ノ説教ヲ聽聞ス

同二十五日 月 夜祈禱會

同二十六日 火 同

同二十七日 水 同

同二十八日 木 同

同二十九日 金 同

同三十日 土 同

同三十一日 日 同

午前十時ヨリ説教ス午後少シク不例ナルニ由神田ニ行カサリ
シ

此夜ヨリ會堂ニテ説教ヲ始ム集ルモノ可ナリニ多シ

六月一日 月

同二日 火

同三日 水 説教アリシモ雨天ナルヲ以テ來ルモノ甚タ少カリ
シ

同四日 木 祈禱會

同五日 金

同六日 土

同七日 日

松山兄説教ス午後神田ニ到ル

同八日 月

同九日 火

此日午後ヨリ警醒社ニテ委員會ヲ開キ會計ノ不足ナルヲ以テ
當一ヶ月中休刊スルコトニ決ス

同十日 水

夜説教ス集ルモノ凡ソ十五六名
同十一日 木 祈禱会

此夜十一時過キ西京ヨリ警醒社ヲタスクルトノ電報来ル欣林
措ク能ハズ

同十二日 金

同十三日 土 晴

此日午後二時ヨリ上野辨天ノ寺同志社第二同窓会ヲ催フセリ
集ルモノ凡ソ十三名ナリシモ頗ル愉快ナル集リナリシ

同十四日 日 晴

午前会堂ニ於テ説教ス集ルモノ凡ソ五十余名午後ハ疲労セシ
ヲ以テ神田ニ行クコトヲ止メタリ夜ハ下曾根氏ノ後ニテ少シ
頃ノ説教ヲ為ス集ルモノ二十七八名

同十五日 月 晴

午後聖書翻訳委員ノ集会アリ

同十六日 火

同十七日 水 雨

夜説教ス集ルモノ格別多カラズ

同十八日 木 雨

夜祈禱会アリ大庭氏ノ入会試験ヲ為ス

同十九日 金 晴

午後沢田高寄両氏ヲ訪フ夜奥村氏ニテ会説ヲ為ス

同二十日 土 晴

午後二時数寄橋内会堂ニ於テ警醒社總會ヲ開ク三百余ノ株主
ニテ集ルモノ僅ニ二十八九名先ツ事務ノ報告ヲ為シ左ノ件々ヲ
議決ス

一 今度アメリカンボールドヨリ向フ一ヶ年八百弗ノ扶助ヲ
為スニ於テハ左ノ二ヶ条ニ不都合ナキニ於テハ五名ノ委
員ヲ撰ミテ一切ノ事務ヲ委任スルコトニ定ム

一 警醒社新聞此迄ノ主義ヲ変セサルコト

一 向フ一年ニテ維持法立ツコトヲ保証スル能ハサルコト

後ヲ撰挙ヲ行フタルニ

秦、三浦、井深、湯浅、小寄ノ五氏撰ニ当ル

夜虎門会堂ニ於テ工部大学校生徒ノ為メニ講義ヲ為ス以來毎
月第一、第二、土曜日ノ夜約翰伝ノ講義ヲ為スコトニ定ム然
シ七八ノ両月ハ学校休業ニ付休講スルコトニ決ス

同二十一日 日 晴

午前説教ス集ルモノ凡ソ四十名本日ハ身体疲労シ精神甚タ不
活潑ニシテ十分ノ説教ヲ為ス能ハサリシ

午後ハ例ノ如ク神田ニ行ク但シ次ノ安息日ヨリハ神田鍋町北

原氏宅ニ於テ講義ヲ為スコトニ決ス

夜ハ下曾根説教ス集ルモノ二十七八人

同二十二日 月 晴 午後四時比雨

午後二時ヨリ大学講堂ニテ開説セル哲学会ニ行ク吉谷氏曾テ
余カ発セル問題ニ答義ヲ為ス

同二十三日 火 雨

午後三時ヨリ警醒社委員会ヲ開キ本社将来ノ事ニ付キ種々ノ
相談ヲ為ス

同二十四日 水 雨

夜講義ヲ為ス傍聴ニ来リタル二三ノ書生質疑ヲ為セリ
同廿五日 木 雨

夜折禱会ヤリタリ

同廿六日 金 雨

午前九時ヨリ婦人ノ集アリ夜奥村氏ニテ会説ヲ為ス

同二十七日 土 曇

午後二時教会ノ相談会ヲ開ク集ルモノ僅カニ十五六名左ノ件
ヲ決議ス

第一、長田兄ノ旅費ハ二分八分ノ割合ヲ以テ教会一同ヨリ出

スコト但シ一人前五錢ヨリ少カラサルコト

第二、長田兄ノ月給ヲ増加シ十八円ト為スコト

第三、伝道費トシテ毎月少クモ三円六十錢ヲ募集スルコト

右議決ノ終ニ會計ヲ投票セシ荒井下曾根ノ二氏撰ニ当ル

同二十八日 日 曇

午前六時ニ宅ヲ発シ老番汽車ニテ横濱ニ至リ之ヨリ直ニ汽船

ニ乗テ横須賀ニ至ル同十一時比ヨリ同地佐伯氏宅ニ於テ説教

ス集ルモノ男女合セテ二十四五名皆謹テ聴聞ス同地ニハ此迄

二三ノ信徒アリシモ安息日集ヲ為スコトナカリシガ佐伯寺尾

之両氏同地ニ至ラレシヨリ集ヲ開キ此迄横濱ヨリ二三ノ教師

行テ之ヲ助ケラレ今ヤ稍萌芽ヲ生スルニ至ル今回ハ右両氏ヨ

リノ招ニ依テ行キシナリ

夜又説教ス集ルモノ二十名許リナリ今度天父ノ御誘導ニテ此

処ニ至リ右両兄ニ逢ヒ且ツ二十余名ノ兄弟ニ道ヲ語ルコトヲ

許シタマフタルコトヲ謝ス

同二十九日 月 雨

午前同処造船所ニ行キ工場ヲ縦覧ス

午後一時四十五分出帆ノ船ニテ帰宅ス

同三十日 火 雨

七月一日

一日 水 此日大雨諸川暴漲ス十二時過キ本郷岩村氏ヨリ録弥
君ノ病急ナリ速ニ来ルヘント腕車ヲ送ラル余等夫婦皇倉衣服
ヲ替ヘ之ニ乗リテ行ク途中大雨ノ為メ頗ル困却ス二時比岩村
氏ニ至ル至リ見レバ已ニ録弥君ハ眠ニ就カレタル跡ナリ悲嘆
止ム能ハズ数時間空シク戸ノ側ニ坐ス何時マデモ悲ムヘキニ
非レバ早速葬送ノ用意ヲ為ス此夜戸ノ側ニ在テ通夜ス録弥ハ
四月中旬ヨリ少々不快ニテ五月始メヨリ床ニ就キ日ヲ追テ益
危篤ナル已ニ二旬前ヨリ到底起ツ可ラサル旨承諾シ居タレト
モ余ノ薄情ナル十分之ニ愛ヲ尽クスコトモナク打テ過キタル
残念ノ至リナリ然レトモ死ニ臨ミ同君ニ安心ノ覚悟アリタル
ヲ聞キ稍心ニ慰藉スルヲ得タリ

同日 木 大風

昨日ノ疲ニテ気分宜シカラス且グリイン京都ヨリ来ルノ約ア
レバ九時ヨリ帰宅ス夜ハ本郷ニ帰ル積リノ処グリイン氏夜來
ラレタレバ今夜ハ宅ニテ安眠ス

同三日 金 晴

午前六時ヨリ本郷ニ至ル七時過葬式アリ余之ヲ可ル感スル所
ヲ述ヘント欲シタルモ精神ナク十分陳ル能ハサリシハ全ク近
來余カ信仰熱心ナラサル故ト信ス願クハ我カ信仰ヲ扶ケ給ヘ
九時比葬送モ済ミタリ十二時過キヨリ帰宅ス 三時過松山兄
宅ニ於テ新聞之事ト伝道之事等グリイン氏ト相談ス夜九時過
キ帰宅ス是ヨリ前キ三十日一日ノ雨ニテ諸方ニ大洪水アリ府

下住大橋ト吾妻橋流失シ深川其他水ニ浸シタル所少カラズ
大阪ハ非常ノ洪水ニテ市中一円水ニ浸シ重モナル橋ハ大概流
失ス人畜ノ死傷モ少カラズト云フ

同四日 土 雨

夜秦氏宅ニ於委員会ヲ催フシ本社事務一切ヲ大西氏ニ依頼ス
ル事ニ決ス

同五日 日 晴

九時ヨリ説教グリーン氏之ヲ務ム大庭氏洗礼ヲ受ク余晚餐ノ
礼ヲ司ル 夜余説教ス集ルモノ格別多ラズ

同六日 月 雨

午後ヨリ本郷岩村氏ノ法事ニ会ス片桐氏陸中ニ向テ出発ス
同七日 火 微雨

午後横濱大西氏ニ至リ警醒社譲渡シノ事ヲ談判ス帰路松山兄
ニ立チ寄り十時比帰宅ス此日千代との本郷ヨリ帰ル

同八日 水 晴

午前長田兄来訪ス同兄ハ昨夜神戸ヨリ帰宅セリ午後奥村氏及
三浦氏ヲ訪フ

夜説教アリ集ルモノ多カラズ

同九日 木 晴

午後浮田兄及ヒ和田垣兄ヲ訪フ夜祈禱会アリ集ルモノ平常ヨ
リ多シ

同十日 金 雨

夜警醒社ニ於テ委員会ヲ催ス秦氏ト余ノミ出席ス大西氏クリ
イン氏之ニ臨ミ事務譲渡シノ事ヲ談ス大西氏有形ノ儘社務ヲ
引キ受ケ貸ニナリ居ル分ヨリ借金ヲ返シ前金ニテ諸雜費ヲ支

払フコトヲ諾ス十一時過キニ帰宅ス

同十一日 土 雨

グリーン氏西京ニ帰ル
同十二日 日 晴

午前八時ヨリ安息日学校九時ヨリ説教植村兄基督十字架上ノ
語ニ付テ説ク集ルモノ凡ソ六十余名夜神田鍋屋町之北原氏宅
ニ於テ講義ヲ為ス集ルモノ家内ノ人々タルニ過キズ

同十三日 月 晴

朝ヨリ午マデ来客断ヘズ
同十四日 火 晴

午前編輯ニ従事シ午後警醒社出ツ
同十五日 水 雨

夜説教アリ集ルモノ別ニ多カラズ重ニ信者ノ為メニ説教ス
同十六日 木 晴

午後三時過キヨリ自宅ニ於テ伝道ノ事ヲ談ス松山長田下曾根
ノ三兄来ル夜祈禱会アリ

同十七日 金 晴

昨夜ヨリ歯痛アリタルヲ以テ甚タ疲労ス午前青松寺ノ僧来訪
ス論談數時間ニ渉ル気分悪シキヲ以テ終日外出セズ夜ノ奥村
氏ノ集ハ長田兄ニ托ス

同十八日 土 晴

午後二時教会ノ親睦会アリ集ル人凡ソ四十余名数名ノ演説者
アリテ後互ニ親睦ス

同十九日 日 晴

昨夜ヨリ歯痛アリテ頗ル疲労ス本日ハ下谷教会ニテ説教スヘ

キ前約アリシヲ以テヲシテ行テ説教ス甚タ精神ノ乏キヲ感シ
タリ植村兄宅ニ於テ午餐ノ饗ニ与ル午後同兄ト大谷教授ニ行
イテ説教ヲ聴聞ス格別面白キヲ覺ズ

夜會堂ニ於テ説教ス集ルモノ二十余名

同廿日 月 晴

午後警醒社及神學校ニ行ク

同廿一日 火 晴

同廿二日 水 晴

夜説教ス集ルモノ凡ソ二十余人

同廿三日 木 晴

夜祈禱會アリ

同廿四日 金 晴

齒痛アリテ此日ノ演説會ニ出ツルヲ得サリシ後ニテ聞ケバ頗
ル盛會ナリシヨシ

夜奥村氏ノ集ニ出ツルヲ得サリシ

同廿五日 土 晴

同廿六日 日 晴

朝會堂ニテ祈禱ノ力ニ付説教ス過日フ井ンニノ自伝ヲ読頗
ル感スル所アリテ此談ヲ為ス此日集ルモノハ平常ヨリ少カリ

シ夜神田鍋町ニ行テ講義ス

同廿七日 月 晴

終日基督教新聞ノ原稿ヲ認ムルコトニ費シタリ

同廿八日 火 晴

此日津田松山之両兄ト神奈川高島賀右エ門氏ヲ訪フ共ニ信ス
ル所ヲ述ヘ且ツ祈禱シ清談時ヲ移シテ夜九時比婦宅ス高島氏

ハ頗ル情慢ナル人ナリ然シ神アルヲ信スルモノナレバ他日神
ノ誘導ヲ蒙リ改悔スルコトナシトス可ラズ余ハ常ニ氏ノ為メ
ニ祈ラントス

同廿九日 水 晴

此日炎暑甚シキヲ感シ日中他出スルヲ得ズ午後五時ヨリ出テ

警醒社ニ関ヘル俗事等ヲ弁ス夜説教ニ出ツルヲ得サリシ

同卅日 木 晴

午後二時ヨリ九鬼氏ヲ訪ヒ敷時間教ノ談ヲ為ス氏頗ル感スル

所アルガ如シ後日必ス聖書ヲ調フヘキコトヲ約ス共ニ祈禱ヲ

致シテ婦ル掃路権田氏ヲ訪フ此日松山兄ト共ニ九鬼氏ヲ訪フ

約東ナリシガ余時間ヲ違ヘシヲ以テ共ニ行クコト能ハサリシ

夜祈禱會アリ共ニ熱心ナル祈禱ヲ奉ケ頗ル有益ナル會ナリシ

同三十一日 金 晴

午後ヨリ警醒社及ヒ神田北原氏ニ至ル

八月一日

同一日 土 晴

此日和田正□氏来リテ午後四時迄滞リ何ヲモ為ス能ハサリシ

此一週間中ハ毎朝七時ヨリ祈禱會ヲ催シ聊カ感スル所アリシ

殊ニ過日ヨリフ井ンニノ一代記ヲ讀ミ大ニ發明スル所アリ

タリ願クハ神ヨ此恩籠ヲ空フセサランヤウ扶ケ玉ヘ

同二日 日 晴

長田兄會堂ニ例ノ時刻ヨリ説教ス説教後余聊カ感スル所ヲ述

ブ本日集ル人凡ソ五十人此回ヨリ子供ノ安息日學校ヲ始メタ

ルニ集ルモノ十余人アリタリ尚ホ神ハ此安息日學校ニ恩籠ヲ

下シ玉ハンコトヲ祈ル

却説本日夕刻ヨリ兼テ計画シタル連夜説教ヲ始メタルニ集ルモノ三十余人皆ナ謹テ之ヲ聴ケリ長田兄ト余説教ス

同三日 月 雨

此日ハ午前編輯ニカヲ用キタリ夜ハ例刻ヨリ説教雨天ナカラ集ルモ少カラズ大西長田両兄説教ス

同四日 火 雨

午前十一時ヨリ高審兄ヲ問フ共ニ談シ共ニ祈ル同兄ハ近頃大ニ感スル所アリテ甚タ既往ノ罪ヲ悔ラレタリ余同兄カ聖靈ノ恩雨ヲ受ケニシコトヲ神ニ感謝ス午後同兄ト共ニ高野氏ヲ訪フ数時間教ヲ勸メテ帰ル

夜ハ雨天ナリシモ三十余人ノ集リ甚タ盛会ナリ松山兄ト余説教ス稍感スルモノアリシカ如シ今夜ノ集リニハ聖靈ノ恩雨アリタリト見ユ感謝祈禱スベシ

同五日 水 曇

朝ハ例ノ通り七時ヨリ祈禱ス午後寺尾君ト奥村君ヲ訪フ夜四十余人集ル長田兄ト余説教ス今夜ノ説教ハ昨夜ホドノ勢ナク少シ屈スル所アルガ如シ思フニ昨夜ノ恩籠ニ因リテ稍ヤ怠慢心ヲ生シタル故ト存シ深ク其罪ヲ神ニ感謝ス願クハ迂生ノ罪ヲ赦シ聖靈ノ恩雨ヲ降シ明夜ノ集ヲ恵ミ玉ハラントヲ祈ル

同六日 木 晴

今朝ハ用事アリテ祈禱会ニ出席セサリシガ後ニテ其罪ヲ悔ヒタリ

夜松山兄ト余ト説教ス今夜ハ昨夜ヨリモ集ルモノ多ク亦益モ多キガ如シ

同七日 金 晴

朝祈禱会ニ出席ス

夜長田兄ト余説教ス今夜ノ話ハ別格勢力ナキカ如クニ覺ニ全ク祈禱ノ足ラサル故ト思ハル

同八日 土 晴

朝祈禱会ニ出席ス

夜植村兄ト余説教ス集ルモノハ昨夜ヨリモ少ナケレドモ益ハ多ク見ヘタリト思ハル

同九日 日 晴

午前八時半ヨリ安息日学校ヲ開ク其生徒五十三名アリ安息日学校ノ始マリテ以来今日ノ如ク盛ナルハナシ九時半余説教ス昨夜ヨリ疲労セシヲ以テ精神ナク且ツ神恩ヲ感スルコト尚ホ浅キヲ以テ格別ノ益アラサリシカ如ク見ヘシハ実ニ恐縮ノ至ナリ集ルモノ七十余名

本日ヨリ長田兄新ニ道ヲ求ムルモノ、為メニ聖書ノ会説ヲ始ム

夜ノ説教ニハ大西兄之ヲ話ス別格ノ益見ハレズ

同十日 月 晴

午前祈禱会ニ出席ス

夜ノ説教ニハ下曾根兄出席ス其説教ニ精神乏シカリシハ遺憾ノ至リナリ本日終日編輯ニ時ヲ費ヤセリ

同十一日 火 晴

朝祈禱会ニ出席ス午後ヨリ警醒社及丸善ニ行ク

夜余説教ス集ルモノ多ク且ツ少ノ益アリタルガ如シ

同十二日 水 晴

朝祈禱会ニ出席ス

夜松山兄説教ス集ルモノ前日ヨリ少ク多シ

同十三日 木 晴

朝ハ例日ノ如シ

夜長阪下メンデスト教会ノ演説会ニ出デ、演説ス本日ハ転宅ノ支度ヲ為シ稍疲勞セシヲ以テ演説ニ精神入ラサリシヲ遺憾トス然レトモ同夜右講義所ニ集リシモノハ百人余ナリ

同十四日 金 晴

朝祈禱会ニ出席ス朝ヨリ転宅ノ支度ヲ為シ午前十時頃ニ赤阪溜池榎阪町五番地湯浅兄宅ニ転宅ス夜余説教ス其題ハ天国ナリキ

同十五日 土 晴

一昨日来ノ事ニテ甚タ疲勞シタレバ幾ト何ヲモ為ス能ハサリシ菊代朝ヨリ発熱シ下痢ス

夜長田兄之説教アリ

同十六日 日 晴

朝安息日学校生徒ハ四十余名説教ハ松山兄ニテ集ルモノ凡ソ六十余名説教後余感スル所ヲ述ブ目下甚タ憂フベキ信徒大概睡眠中ニアルコトナリ願クハ生ケル神聖靈ノ祐助ヲ賜ハリ之ヲ醒覚シ給ヘアーメン

夜余活ケル水ト云フ題ニテ説教ス

同十七日 月 晴

午前午後皆ナ宅ニ居テ休息ス

夜祈禱会アリ感スル所ヲ述ブ此一週間中祈禱会ヲ開クコトニ決ス

同十八日 火 晴

午前神田北原氏宅ニ至ラントシテ和田倉門ニ至ル頃長田兄ニ会ヒ其事情ヲ詳ニスルヲ得シヲ以テ同兄ト共ニ帰宅セリ但シ北原氏ハ前日ヨリ家出シ其所在不分明ナルカ故家中皆ナ心配セシニ由リ之ヲ訪ハンカ為メナリシ

午後六時発ノ汽車ニテ川峯窪田氏受持ノ講義所ニ行ク夜八時頃説教始マリ同十時過キニ終ハル聴衆凡ソ百七十八名ナリシ其夜更ケシヲ以テ同氏宅ニ一泊ス

同十九日 水 晴

朝七時十五分発ノ汽車ニテ帰宅ス

夜説教アリ

同廿日 木 晴

夜祈禱会アリ後鶴田今西両氏之受洗試験ヲ為ス其信仰厚キヲ見テ皆々満足ス

同廿一日 金 晴

夜祈禱会アリ木全氏ノ入会試験ヲ為ス之ニモ満足セリ

同廿二日 土 晴

夜祈禱会アリ奥村氏ノ入会試験ヲ為ス之モ受洗セシムルコトニ決ス次週ヨリハ祈禱会ヲ有志ノミ朝開クコトニ決ス

同二十三日 日 晴

朝説教ハ長田兄之ヲ為ス聴者凡ソ六十余名午後五時比ヨリ中井氏及ビ上野氏ヲ問フ八時過キ神田北原氏宅ニ行キ聖書ヲ讀ミ神ニ祈禱ス

同二十四日 月 晴

終日新聞ノ草稿ヲ作ルコトニ勉強ス

初期の小崎弘道日記 (1)

同二十五日 火 晴

朝祈禱会ニ出ツ

午前ハ新聞ノ原稿ヲ作レリ

同二十六日 水 晴

朝祈禱会ニ出ツ日中ハ来客多ク幾ト何事ヲモ為シ能ハサリシ

夜ハ説教シタレドモ甚タ精神ノ乏シキヲ覺ヘタリ

同二十七日 木 晴

朝祈禱会ニ出ツ

夜祈禱会アリ諸氏ノ感話祈禱アリテ殊勝ナル会ナリ

同廿八日 金 晴

同廿九日 土 曇

同三十日 日

余説教ス其題ハ悔改セヨトナリ聴衆凡ソ七十人同日午前十二

時共存同衆ニテ三好、山下、岡部、和田垣四君ニ会ヒ将来基

督教ヲ研究スヘキコトヲ約ス

同夜会堂ニ出ツ

同三十一日 月

九月一日

一日 火曜日 草間氏ヲ問フ

同二日 水 晴

夜会堂ニテ説教ス集ルモノ凡ソ二十人午前三好氏ヲ訪フ

同三日 木

祈禱会アリ石原氏受洗ノ試験ヲ為ス

同四日 金 晴

午後三時ヨリ教会ノ総会アリ数条ノ規則ヲ議定ス
同五日 土

夜工部大学生徒ノ為会読ヲ為ス

同六日 日 晴

説教ハ松山氏之ヲ務ム三名ノ男子ト一名ノ小児ノ受洗アリ後

聖晚餐ノ式ヲ守ル集ルモノ凡七十余名夜余説教ス

同七日 月 晴

イーストレーキヲ訪フ

同八日 火 晴

同九日 水 晴

午前北垣氏及ヒ加藤氏ヲ訪フ

同十日 木 晴

同十一日 金 晴

同十二日 土 晴

午後芝区教会之集ヲ為ス

夜工部大学生徒ノ祈禱会ニ出ツ

同十三日 日 晴

長田兄説教集ルモノ凡ソ七十人夜余説教ス

同十四日 月 晴

同十五日 火 晴

午後一時比イーストレーキ氏ヲ訪フ帰路浮田氏ヲ訪フ夜湯浅

吉郎下村孝太郎両氏ノ為ニ送別会ヲ為ス

同十六日 水 微雨

湯浅吉郎氏米國ニ向テ出発ス

午後岩井雅重氏ヲ駿河台ノ病院ニ訪フ氏ノ為メニ祈禱シテ帰

ル夫ヨリ三好氏ヲ訪ヒタレド同氏ハ留主ナリ津田道太郎ヲ訪ヒタルニ同氏在宅ナリシ夜説教アリ余説教スサレド身体疲労シ精神乏シカリシヲ以テ甚タ不出来ナリシ

同十七日 木 晴

朝北垣氏ヲ築地精養軒ニ訪ヒタルモ留主ナリシヲ以テ面会スルヲ得サリシ

之ヨリハリス氏ヲ訪ヒ之ニ面会ス

今夕ヨリ東北ヘ向ケテ出発スル積ニテ色々ノ入用物ヲ整ヘ帰宅シタルモ汽船ノ出帆日違フタルヲ以テ遂ニ出発スル能ハサリシ夜会堂ニ到ル疲労甚タシキヲ以テ祈禱ヲモ為シ能ハサリシ

同十八日 金 雨

午前書状及ヒ記録ヲ認ムルコトニテ費ス

夜会堂ニテ説教アリ

同十九日 土 曇

午前午後東北出発ノ備ヲ為ス夜工部大學生徒ノ為メニ尾寄氏宅ニ於テ会説講義ヲ為ス

同廿日 日 晴

午前会堂ニテ一致ノ祈禱ノ必要ナルヲ述ブ聴衆凡ソ七十名後會計ノ相談アリ頗ル不快ノ感ヲ為セリ余輩教会ノ為メ切ニ祈禱セサル可ラサルコトヲ感ス嗚呼大能ノ神ヨ願クハ薄信ノ信徒ノ集レル此教会ヲ憐ミ其信仰ヲ復興シ給ヘアーメン

同午後六時過キ家内教友打集リ祈禱ヲ為シテ出発ス七時十五分ノ汽車ニテ出テ横濱廣島屋ニ着間モナク乗船ス和歌ノ浦丸ハ頗ル大ナル汽船ナリ此夜船中ニ一泊ス

同廿一日 月 晴

午前六時出帆海上至テ穩カナレトモ船中ハ兎角気分快カラズ何ヲモ為シ能ハサリシ

同廿二日 火 晴

午前六時前萩ノ濱ニ着シ大森旅店ニ投ス

同港ハ四五年三菱会社ニテ開キタル所東南ニ山ヲ負ヒ天然ノ良港ナリ人家僅ニ五六十軒アルノミ

午前十一時過キ同港ヲ発シ小汽船ニテ石巻ニ至ル

石巻ハ北上川ヲ跨リテ東西ニ市街ヲ為ス戸數ハ二千五百戸アリ商売頗ル繁劇奥州中ノ一大港ト云フベシ

茲ニ希臘教アリ信徒凡ソ三百盛ニ伝道ヲ為スト云フ新教ノ信徒ハ僅ニ二十四五名伝道師ナク教会ナク尚ホ甚タ微弱ナリ茲ニ伝道師ヲ送ルヲ得バ他日必ス好結果ヲ結フナラン

丹野源四良同左七良田村健弥佐藤傳七白銀繁三良ノ諸氏ニ面

会ス明日当地ヲ出発シ直ニ水沢ヘ行クヘキノ処右諸氏ニ逢ヒ直ニ去ルニ忍ヒズ尚ホ一日滞留シテ説教ヲ為スコトヲ約セリ

此日安定甚三良氏ヲ電信局ニ訪ヒシニ氏ノ寓所ハ小野寺横町菊地氏ナルヲ告ケシヲ以テ直ニ之ニ行キ同氏ニ面会シ氏ト共

ニ日より山ニ上リテ遊歩ヲ為セリ

当地ニ着セシ否ヤ到リシ旅店ハ加賀三右エ門氏ナリシモ旅客多ク雑沓甚タシカリシヲ以テ同夜阿部新七氏ヘ転ス

同廿三日 水 曇

午前十時ヨリ昨夜ノ約ニ從ヒ丹野氏方ニテ信徒ノ為メ勸及ヒ祈禱ヲ為ス集ル者七人午後河東ノ山ニ登リ聖書ヲ讀ミ祈禱ヲ為ス神ノ助ヲ受ケサル可ラサルコトヲ深く感ス

郡長黒川氏ヲ訪フ閑話時ヲ移シテ帰ル
夜丹野氏宅ニ於テ説教ス集ルモノ凡ソ二十余名感スルモノアリタリト見ユ後質問者ノ為メニ答フ為ス

同廿四日 木 晴 [欄外] 石巻

午前七時石巻ヲ発シ川蒸氣ニテ北上川ヲ上ル凡ソ十里許リノ処ハ平地ナレドモ其ヨリ上ハ兩岸山ナルモノアリ又川流頗ル急ナルモアリ稍風光ヲ添ユ此川ハ近頃大金ヲ尽シテ開鑿ヲ為セシ故自在ニ川蒸氣ノ通行ヲ為シ得ルニ至レリト云フ午後六時過キ孤禪寺ト云フ所ニ着ス此ヨリ腕車ニテ一ノ関ニ至リ亀屋ニ泊ス時七時過キナリキ此ヨリ先キ船中ニテ当県東磐井郡奥玉村太田行藏氏ナル人ニ逢ヒ色々ノ話ヲ為シ遂ニ同宿スルニ至レリ同処ハ戸数凡一千余

同夜旅宿ニテ菊地弥兵ト云フ人ニ逢フ同人ハ元ト希臘教ノ信徒ナリシモ途中疑ヲ生シ今ヤ教会ヨリ離レ居ト云フ新教ヲ聞カント希望スル人ナリ

同廿五日 金 曇

午前七時腕車ニテ一ノ関ヲ発ス途中衣川ノ古蹟アルヲ見ル同十一時比水沢駅ニ着ス兼テ期シタル地ニ達セシヲ以テ喜ヒニ堪ヘズ直ニ踞イテ神ニ感謝セリ
午飯ヲ喫シ直ニ片桐氏ヲ問フ夫ヨリ阿部氏ニ至リ感話刻ヲ移ス同氏夫婦ノ懇切ナル招待ニ由リ同氏ノ宅ニ滞留スルコトニ決ス

同講義所ニ於テ祈禱會ヲ催フス集ルモノ八九名ナレドモ皆ナ熱心ナル祈禱ヲ為セリ願クハ全能ノ神此地ヲ憐ミ此回ノ伝道ヲ恵ミ給ハンコトヲアームン

此祈禱會ハ過日ヨリ連夜催フセル祈禱會ナル由昨日船中ニ種々ノ事ヲ思遣ル内會己レノ行ニ思ヒ当リ大ニ此迄ノ行ニ欠点アルヲ見出し慚悔措ク能ハズ向來必ズ此ヲ改メ益主ノ榮光ヲ現ハサンコトヲ期ス

日録第一巻終

〔一八八五年〕

伝道旅行出費録

支度ニ属スル分

- 一金壹円五十銭
- 一 六拾四銭
- 一 十二銭
- 一 九拾五銭
- 一 拾八銭
- 一 拾三銭
- 一 二拾七銭
- 一 二拾七銭
- 合計四円〇三銭也

- 九月廿日
- 一金七銭
 - 一 三拾銭
 - 一 三円五拾銭

- カパン
- シャツ二枚
- シヤボン并ニ函
- 帶一筋
- 手帳并紙
- 足袋
- 羽衣ひも
- 電信
- 人車
- 汽車
- 汽船

一〇二拾三錢
一〇拾錢
ハシケ并旅賃
人車

同廿二日 荻ノ濱

一金四拾五錢
一〇九錢
ハシケ并宿料
端書并小使

一金五拾二錢
一〇拾錢 石卷
汽船
小使

一〇二拾錢 石卷
宿料并茶代

同廿四日 石卷

一金壹円三拾錢
一〇拾錢
汽船
茶代

一〇拾二錢五厘
一〇八錢
人力車
小使

同廿五日

一金三拾錢
一〇三拾七錢
宿料并茶代
腕車

同廿六日 合八円〇三錢五厘

同廿七日
同廿八日 同廿九日 同三十日

十月二日
一金七拾錢
二人分
腕車

一〇六錢
小遣

三日
一金六拾六錢
古川迄
腕車

一〇七錢
一〇六錢
星飯
茶代

一〇二拾錢
一〇五錢
同
腕車 マシ

五日

一金四拾九錢
一〇六拾五錢
宿料
腕車

一〇八錢
一〇拾錢
支度
小使

七日

一〇拾二錢
一金二拾錢
郵便
茶代

一〇壹円三拾錢
一〇八錢
腕車
支度

八日

一〇拾五錢
一〇七拾錢
四ヶ所
茶代
埋木

一金二拾七錢
一〇二拾二錢
藤田駅泊
針生氏ニ借ス
茶代

一〇五錢
一〇六錢
車増シ
シヤツ
櫛

一〇四錢
合計金六円七拾五錢
水沢ヨリ福島マデ
九日

四月六日〔上部欄外に横書で記述〕

此週間内ニ訪ヘント欲スル人々左ノ如シ

七日 午前山下雄太郎氏午後沢田氏及荒井氏尚ホ間アラハ

高寄氏ヲ問夜間山寄氏ヲ訪フベシ

八日 水 晴天ナラバ午前赤峯氏ト共ニ由良氏ヲ訪ヒ午後本郷

岩村氏ニ至リ帰路ニ石井氏ヲ訪フベシ若シ雨天ニアラバ午後

長田氏ヲ訪フベシ

九日 木 午後七時ヨリ出島氏ヲ訪フベシ

十日 金 午後五時ヨリ原氏ヲ訪ヒ夜奥村氏ニ至ルベシ

十一日 土 午後五時比ヨリ福沢氏若シクハ寺島氏ヲ訪フベシ

〔『日録第一』終〕